

4 保護者調査結果の分析

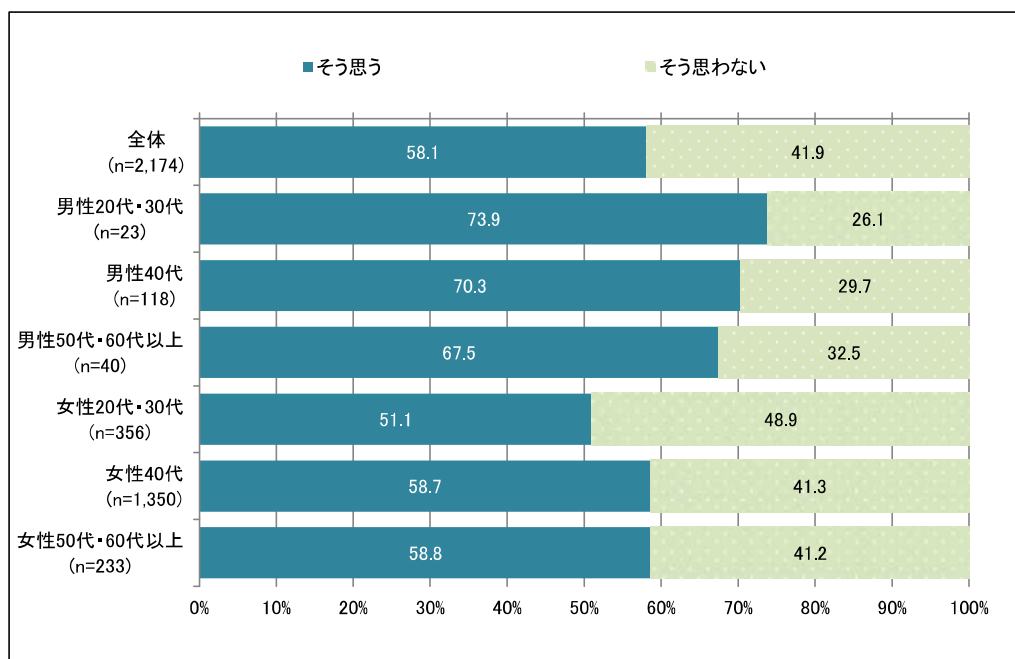
① 性別に関する意識と児童の進路選択等に関する意識の関係

< 仮説・検討事項(6) >

保護者の年代によって、子どもの仕事に対する意識の差が見られるか

(13) 性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		2174	1264	910
		100.0	58.1	41.9
性別・年代	男性 20代・30代	23	17	6
		100.0	73.9	26.1
	男性 40代	118	83	35
		100.0	70.3	29.7
	男性 50代・60代以上	40	27	13
		100.0	67.5	32.5
女性 20代・30代	356	182	174	
	100.0	51.1	48.9	
女性 40代	1350	792	558	
	100.0	58.7	41.3	
女性 50代・60代以上	233	137	96	
	100.0	58.8	41.2	



(図表IV-4-1)

○ 「性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う」について、全体では《そう思う》(58.1%)で6割近くとなっている。

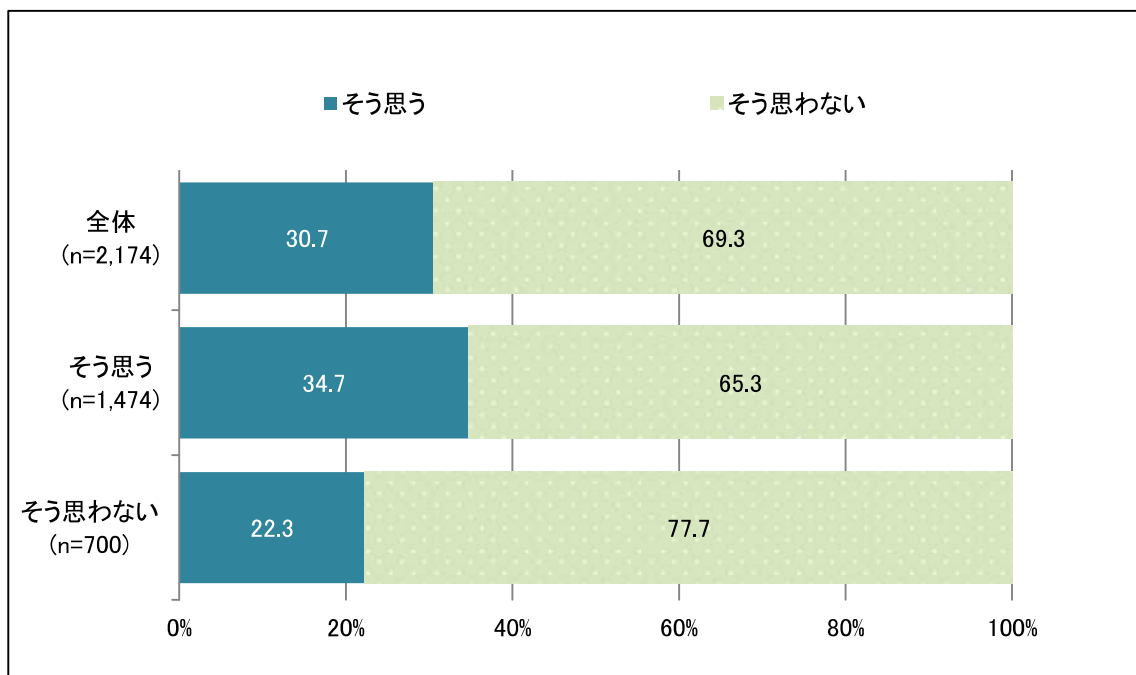
性別・年代別でみると、《そう思う》について、男性では「20代・30代」(73.9%)が7割超え、「40代」(70.3%)が7割、「50代・60代以上」(67.5%)が7割近くとなっており、女性では「20代・30代」(51.1%)が5割超え、「40代」(58.7%)、「50代・60代以上」(58.8%)が6割近くとなっている。

< 仮説・検討事項(7)>

保護者自身が「男性/女性だからと思う」ことは、子どもの進路選択に関する保護者の意識に影響を与えているか

(11) 性別で教科の得意、不得意があると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		2174 100.0	668 30.7	1506 69.3
(3) 「男性だから」「女性だから」と 思うことがある	そう思う	1474 100.0	512 34.7	962 65.3
	そう思わない	700 100.0	156 22.3	544 77.7



(図表IV-4-2)

○「性別で教科の得意、不得意があると思う」について、全体では《そう思う》(30.7%)でほぼ3割となっている。

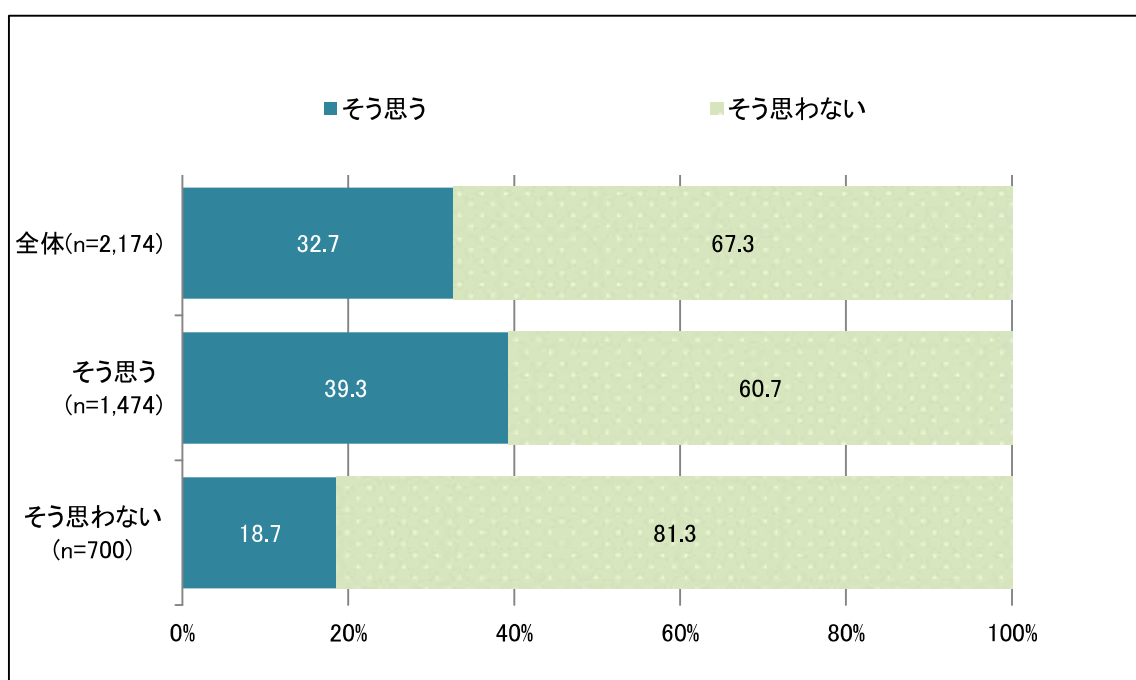
『「男性だから」「女性だから」と思うことがある』の回答別でみると、《そう思う》では《そう思う》(34.7%)が3割台半ば、《そう思わない》(22.3%)が2割を超えており、回答割合に大きな差が見られた。

「性別で教科の得意、不得意があると思う」について、『「男性だから」「女性だから」と思うことがある』の回答別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差($p < 0.001$)が見られた。

設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.27であり、やや相関が見られた。

(12) 性別で子どもの進路を考えることがある (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		2174 100.0	711 32.7	1463 67.3
(3) 『男性だから』『女性だから』と 思うことがある	そう思う	1474 100.0	580 39.3	894 60.7
	そう思わない	700 100.0	131 18.7	569 81.3



(図表IV-4-3)

○「性別で子どもの進路を考えることがある」について、全体では《そう思う》(32.7%)で3割を超えている。

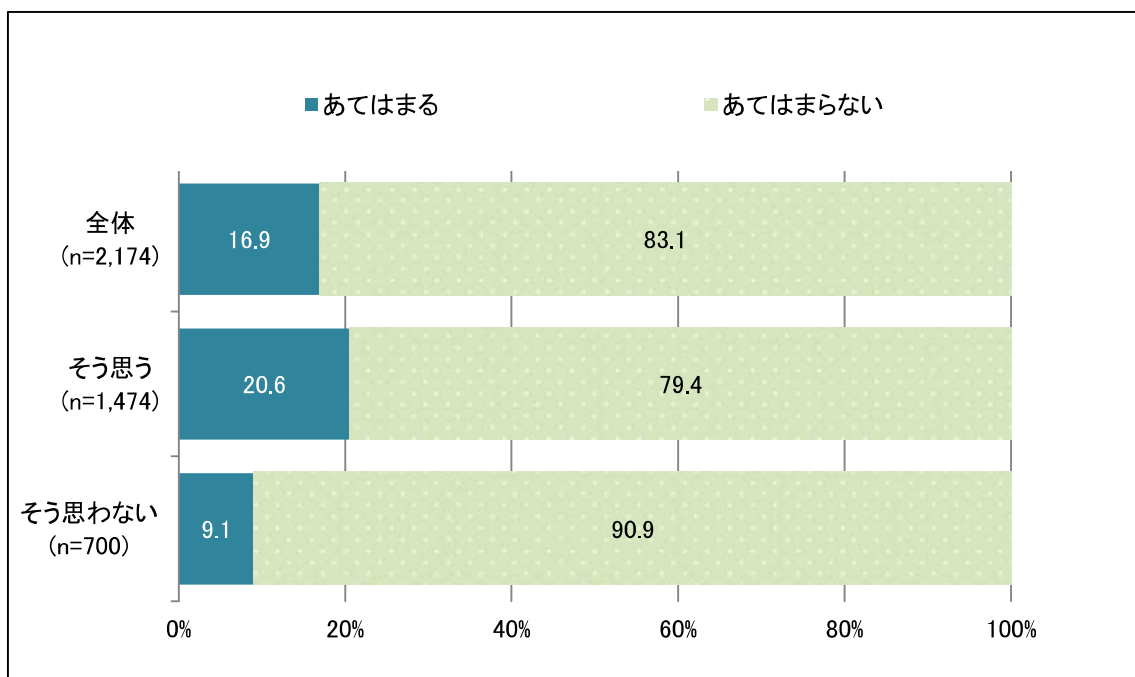
『『男性だから』『女性だから』と思うことがある』の回答別でみると、《そう思う》では《そう思う》(39.3%)がほぼ4割、《そう思わない》(18.7%)が2割近くとなっており、回答割合に大きな差が見られた。

「性別で子どもの進路を考えることがある」について、『『男性だから』『女性だから』と思うことがある』の回答別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.001$)が見られた。

設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.38であり、やや相関が見られた。

(15) 性別で子どもの習い事を選んでいる (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全 体		2174 100.0	368 16.9	1806 83.1
(3) 『男性だから』『女性だから』と思 うことがある	そう思う	1474 100.0	304 20.6	1170 79.4
	そう思わない	700 100.0	64 9.1	636 90.9



(図表IV-4-4)

○「性別で子どもの習い事を選んでいる」について、全体では《あてはまる》(16.9%)で2割近くとなっている。

『「男性だから」「女性だから」と思うことがある』の回答別でみると、《そう思う》では《あてはまる》(20.6%)がほぼ2割、《そう思わない》(9.1%)が1割未満となっており、回答割合に大きな差が見られた。

「性別で子どもの習い事を選んでいる」について、『「男性だから」「女性だから」と思うことがある』の回答別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差($p < 0.001$)が見られた。

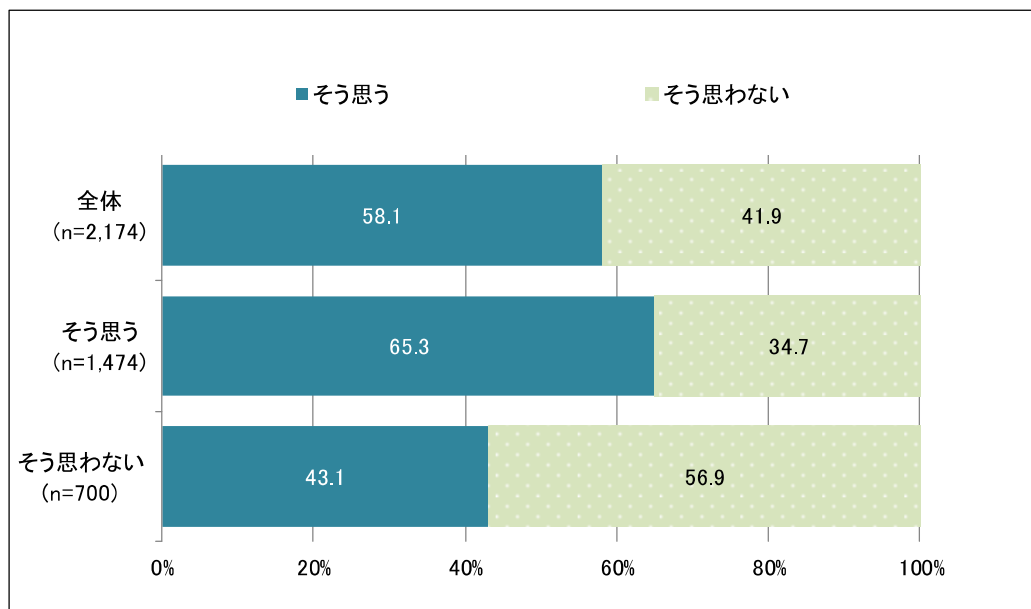
設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.33であり、やや相関が見られた。

< 仮説・検討事項(8)>

保護者自身が「男性/女性だからと思う」ことは、子どもに関して「性別で向いている仕事と向いていない仕事がある」と思うことに影響を与えているか

(13) 性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		2174 100.0	1264 58.1	910 41.9
(3) 「男性だから」「女性だから」と思うことがある	そう思う	1474 100.0	962 65.3	512 34.7
	そう思わない	700 100.0	302 43.1	398 56.9



(図表IV-4-5)

○「性別で向いている仕事と向いていない仕事がある」について、全体では《そう思う》(58.1%)で6割近くとなっている。

『「男性だから」「女性だから」と思うことがある』の回答別でみると、《そう思う》では《そう思う》(65.3%)が6割台半ば、《そう思わない》(43.1%)が4割を超えており、回答割合に大きな差が見られた。

「性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う」について、『「男性だから」「女性だから」と思うことがある』の回答別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差($p < 0.001$)が見られた。

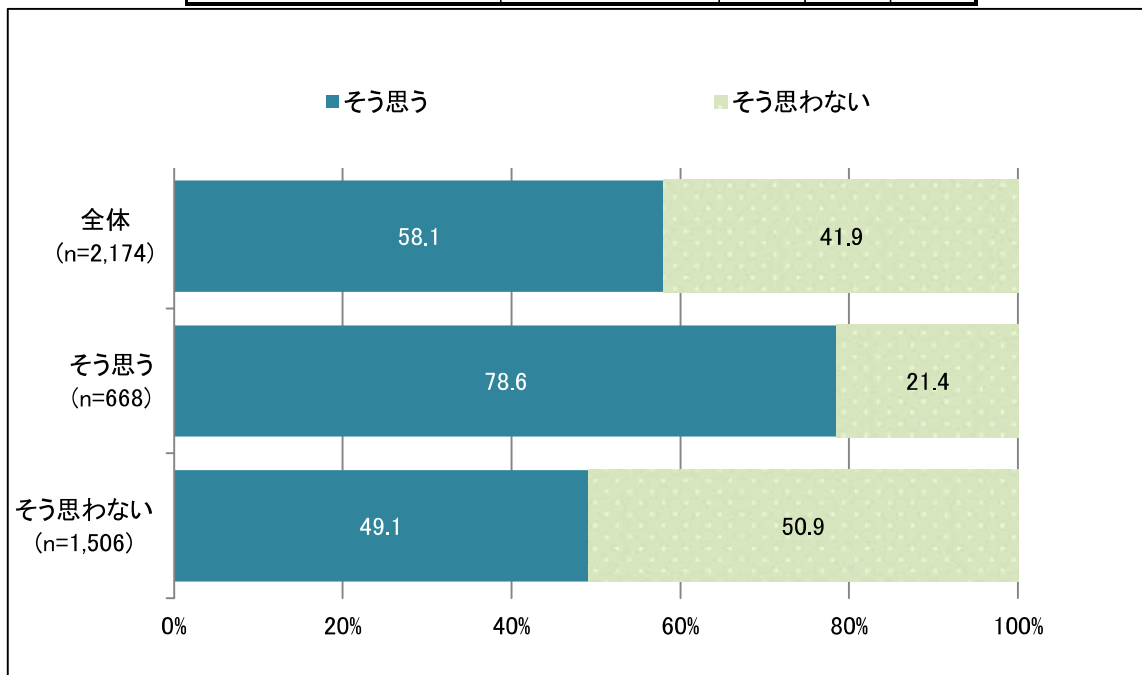
設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.39であり、やや相関が見られた。

< 仮説・検討事項(9)>

保護者が子どもの学習、進路などに関する事項（教科の得意/不得意、進路、習い事）で性別を意識することは、子どもに関して「性別で向いている仕事と向いていない仕事がある」と思うことに影響を与えているか

(13) 性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		2174 100.0	1264 58.1	910 41.9
(11) 性別で教科の得意、不得意があると思う	そう思う	668 100.0	525 78.6	143 21.4
	そう思わない	1506 100.0	739 49.1	767 50.9



(図表IV-4-6)

○「性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う」について、全体では《そう思う》(58.1%)で6割近くとなっている。

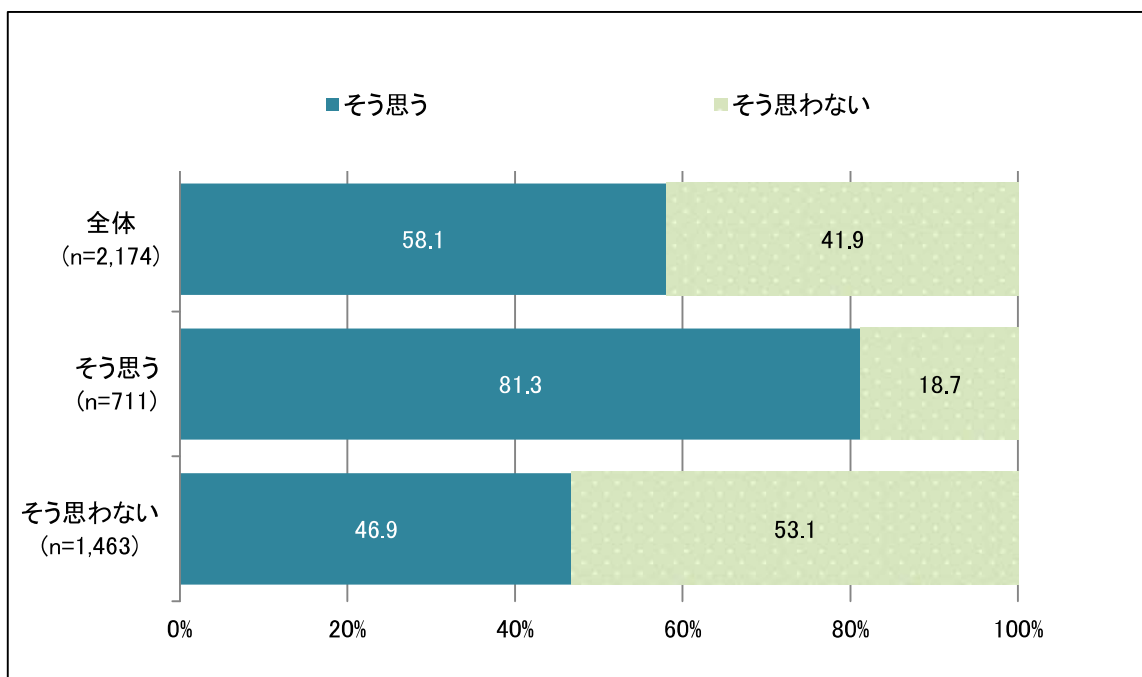
「性別で教科の得意、不得意があると思う」の回答別でみると、《そう思う》では《そう思う》(78.6%)が8割近く、《そう思わない》(49.1%)がほぼ5割となっており、回答割合に大きな差が見られた。

「性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う」について、「性別で教科の得意、不得意があると思う」の回答別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差($p < 0.001$)が見られた。

設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.41であり、かなり相関が見られた。

(13) 性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		2174 100.0	1264 58.1	910 41.9
(12) 性別で子どもの進路を 考えることがある	そう思う	711 100.0	578 81.3	133 18.7
	そう思わない	1463 100.0	686 46.9	777 53.1



(図表IV-4-7)

○「性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う」について、全体では《そう思う》(58.1%)で6割近くとなっている。

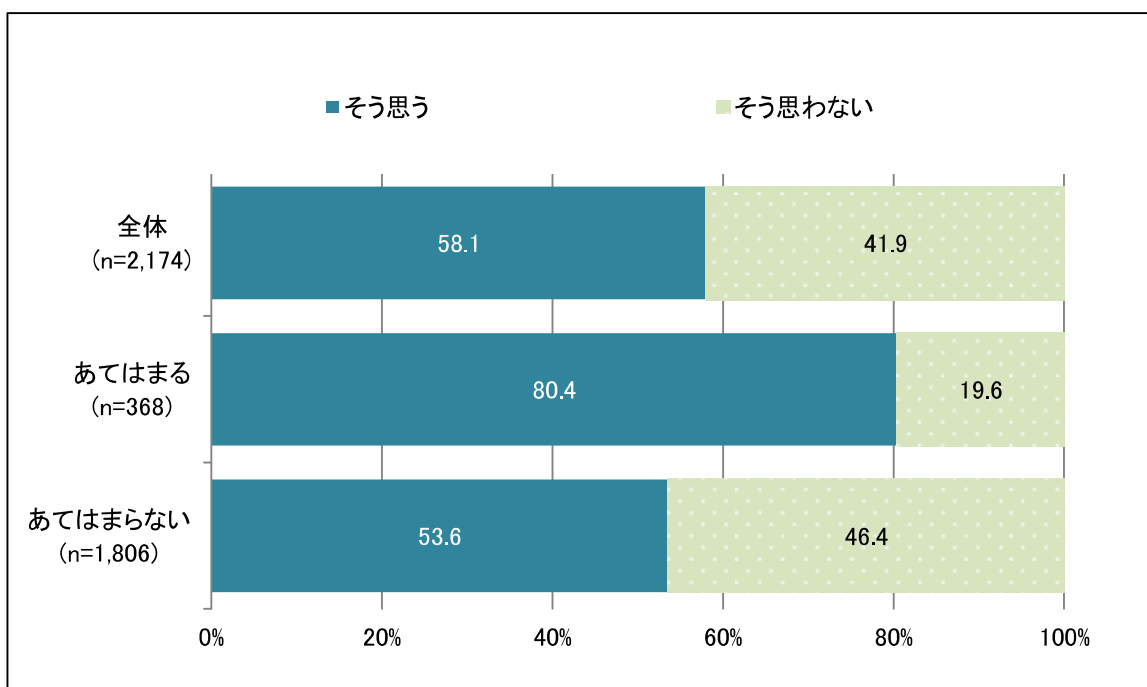
「性別で子どもの進路を考えることがある」の回答別でみると、《そう思う》では《そう思う》(81.3%)が8割超え、《そう思わない》(46.9%)が5割近くとなっており、回答割合に大きな差が見られた。

「性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う」について、「性別で子どもの進路を考えることがある」の回答別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差($p < 0.001$)が見られた。

設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.47であり、かなり相関が見られた。

(13) 性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		2174 100.0	1264 58.1	910 41.9
(15) 性別で子どもの習い事を選んでいる	あてはまる	368 100.0	296 80.4	72 19.6
	あてはまらない	1806 100.0	968 53.6	838 46.4



(図表IV-4-8)

○「性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う」について、全体では《そう思う》(58.1%)で6割近くとなっている。

「性別で子どもの習い事を選んでいる」の回答別でみると、《あてはまる》では《そう思う》(80.4%)が8割、《あてはまらない》(53.6%)が5割を超えており、回答割合に大きな差が見られた。

「性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う」について、「性別で子どもの習い事を選んでいる」の回答別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.001$)が見られた。

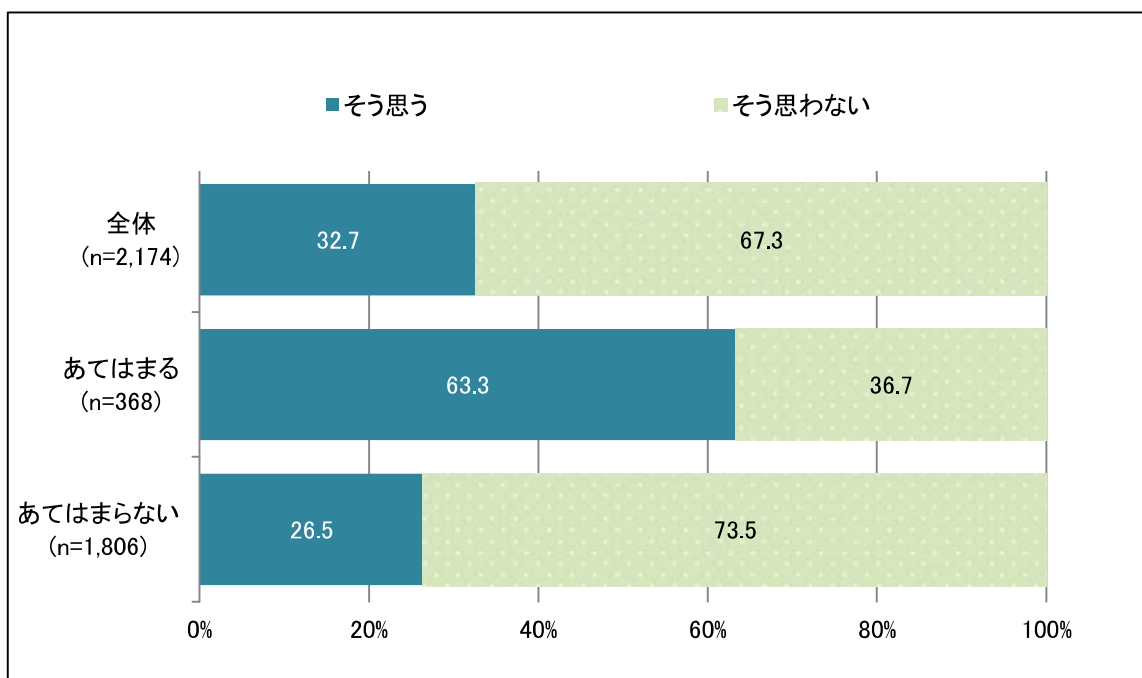
設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.37であり、やや相関が見られた。

< 仮説・検討事項(10)>

「性別で子どもの習い事を選んでいる」ことは、「性別で子どもの進路を考えること」に影響を与えているか

(12) 性別で子どもの進路を考えることがある (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		2174 100.0	711 32.7	1463 67.3
(15) 性別で子どもの習い事を選んでいる	あてはまる	368 100.0	233 63.3	135 36.7
	あてはまらない	1806 100.0	478 26.5	1328 73.5



(図表IV-4-9)

○「性別で子どもの進路を考えることがある」について、全体では《そう思う》(32.7%)で3割を超えている。

「性別で子どもの習い事を選んでいる」の回答別で見ると、《あてはまる》では《そう思う》(63.3%)が6割超え、《あてはまらない》(26.5%)が3割近くとなっており、回答割合に大きな差が見られた。

「性別で子どもの進路を考えることがある」について、「性別で子どもの習い事を選んでいる」の回答別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差($p < 0.001$)が見られた。

設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.51であり、かなり相関が見られた。

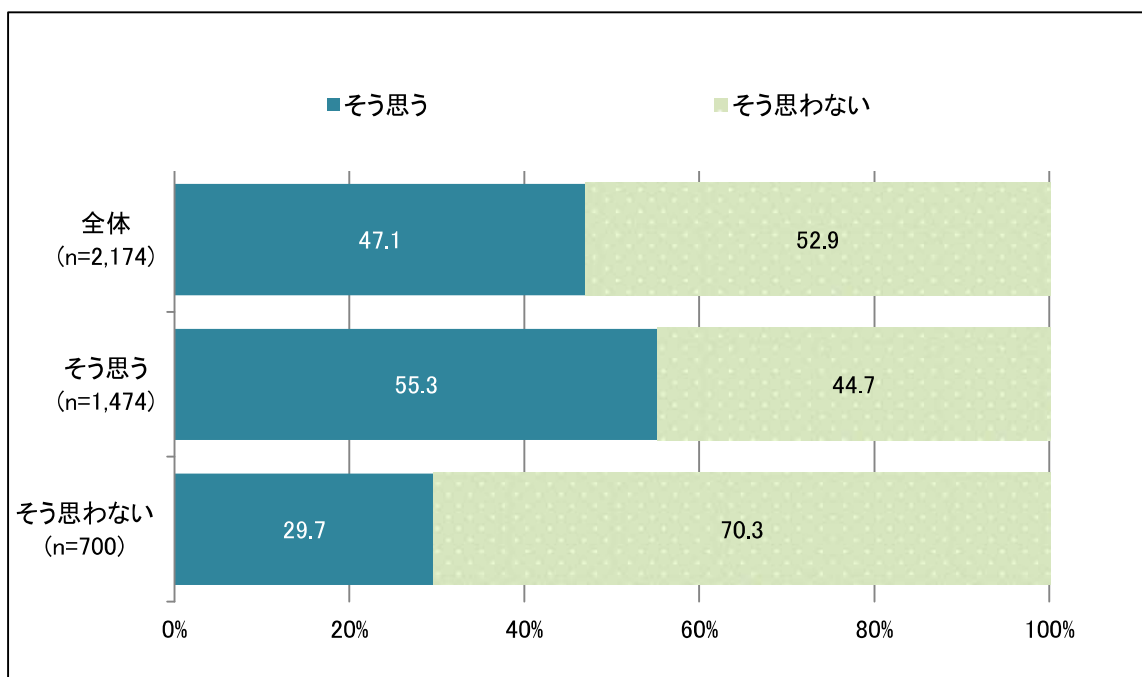
② 性別に関する意識と児童に関する言動等への影響

< 仮説・検討事項(11)>

保護者自身が「男性/女性だからと思う」ことは、子どもに対する言動に影響を与えているか

(4) 服の色など「男の子らしい」又は「女の子らしい」色があると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		2174 100.0	1023 47.1	1151 52.9
(3) 「男性だから」「女性だから」と思うことがある	そう思う	1474 100.0	815 55.3	659 44.7
	そう思わない	700 100.0	208 29.7	492 70.3



(図表IV-4-10)

○『服の色など「男の子らしい」又は「女の子らしい」色があると思う』について、全体では「そう思う」(47.1%)で5割近くとなっている。

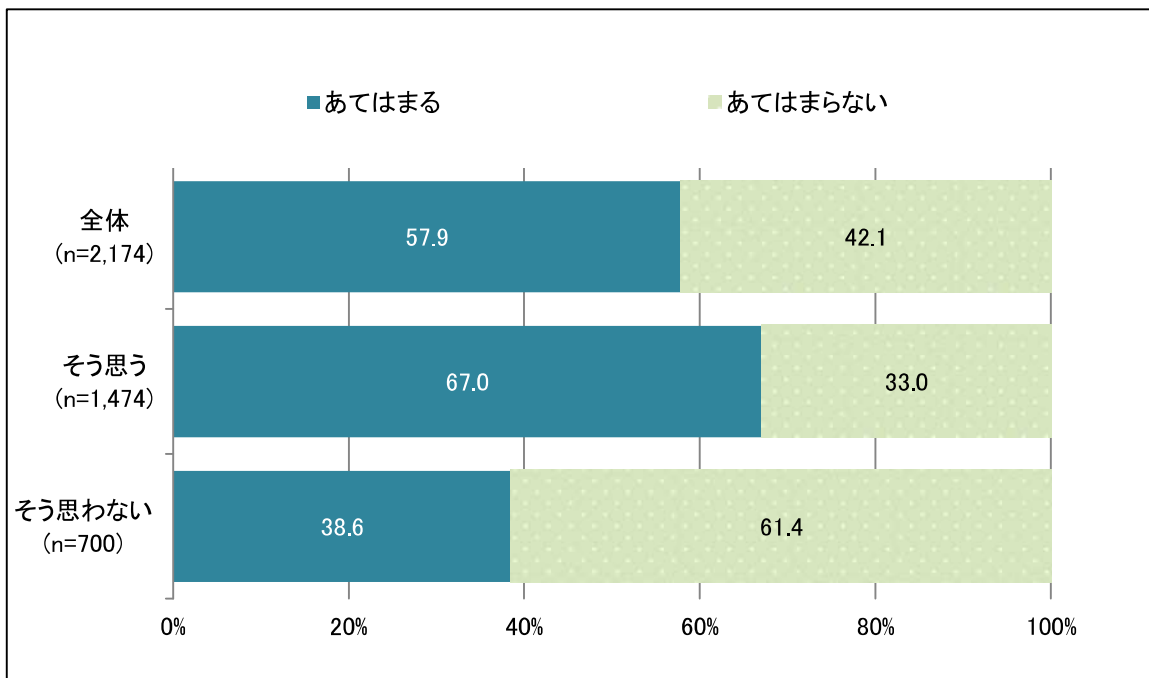
『「男性だから」「女性だから」と思うことがある』の回答別でみると、「そう思う」では「そう思う」(55.3%)が5割台半ば、「そう思わない」(29.7%)が3割となっており、回答割合に大きな差が見られた。

『服の色など「男の子らしい」又は「女の子らしい」色があると思う』について、『「男性だから」「女性だから」と思うことがある』の回答別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.001$)が見られた。

設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.41であり、かなり相関が見られた。

(5) 子どもの日用品やおもちゃを性別を意識して選んでいる (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全体		2174	1258	916
		100.0	57.9	42.1
(3) 「男性だから」「女性だから」と思 うことがある	そう思う	1474	988	486
	そう思わない	700	270	430
		100.0	38.6	61.4



(図表IV-4-11)

○「子どもの日用品やおもちゃを性別を意識して選んでいる」について、全体では《あてはまる》(57.9%)で6割近くとなっている。

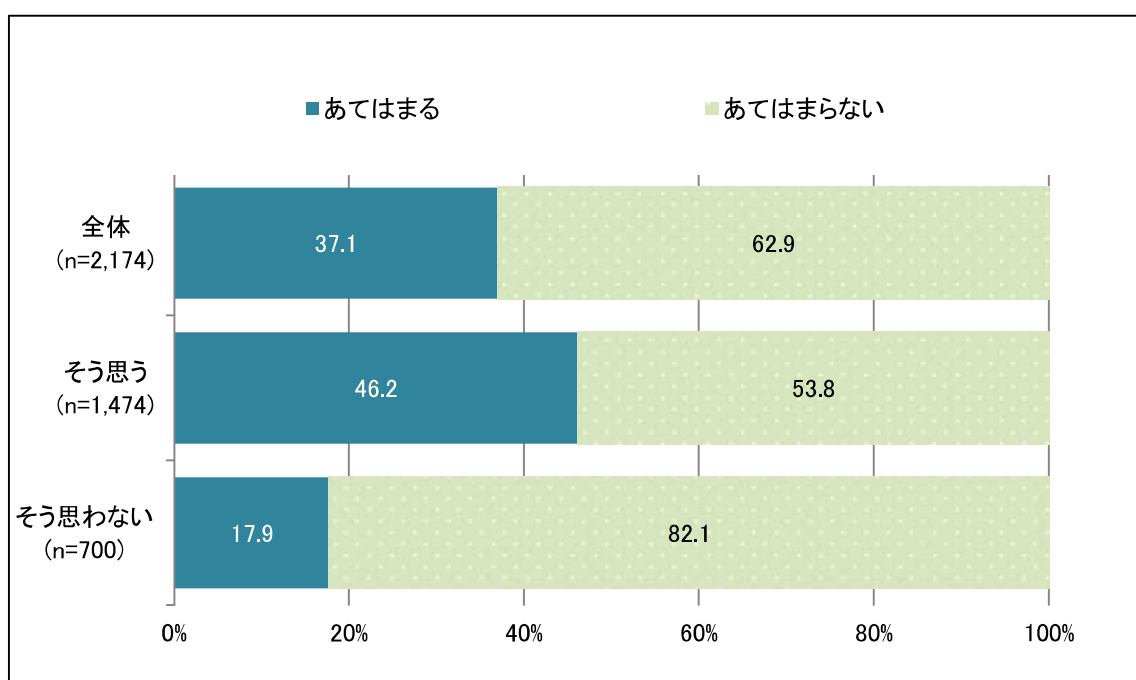
『「男性だから」「女性だから」と思うことがある』の回答別でみると、《そう思う》では《あてはまる》(67.0%)が7割近く、《そう思わない》(38.6%)が4割近くとなっており、回答割合に大きな差が見られた。

「子どもの日用品やおもちゃを性別を意識して選んでいる」について、『「男性だから」「女性だから」と思うことがある』の回答別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.001$)が見られた。

設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.41であり、かなり相関が見られた。

(6) 「男の子なんだから」「女の子なんだから」と子どもに言うことがある (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全体		2174 100.0	806 37.1	1368 62.9
(3) 「男性だから」「女性だから」と思 うことがある	そう思う	1474 100.0	681 46.2	793 53.8
	そう思わない	700 100.0	125 17.9	575 82.1



(図表IV-4-12)

○ 『「男の子なんだから」「女の子なんだから」と子どもに言うことがある』について、全体では《あてはまる》(37.1%)で4割近くとなっている。

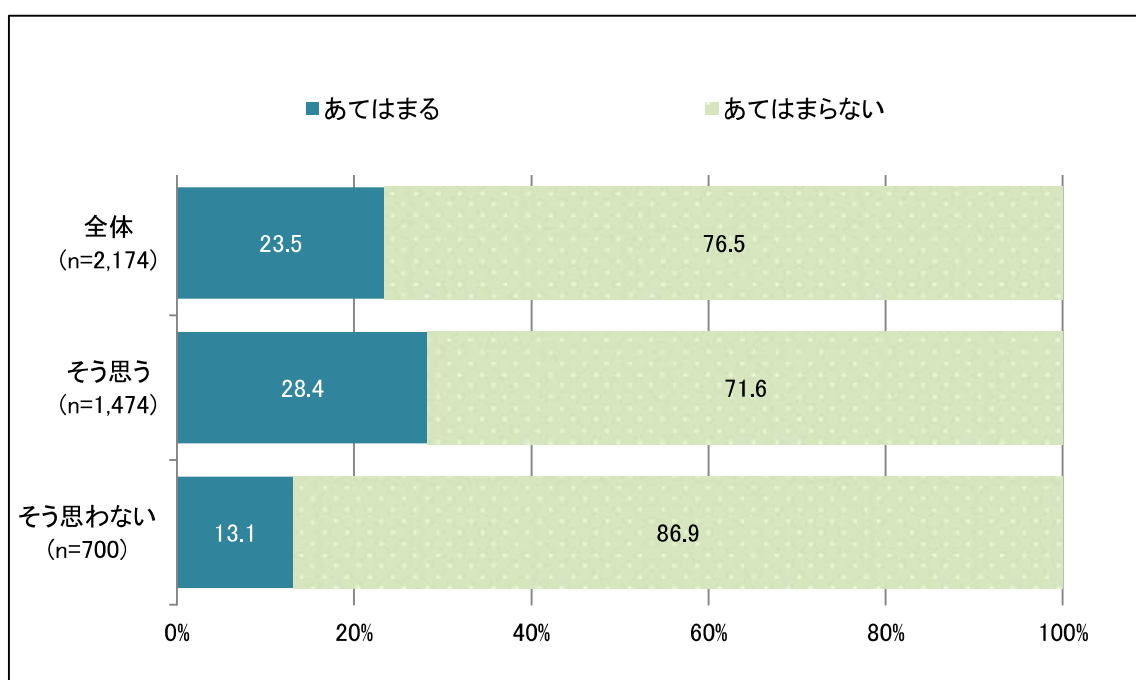
『「男性だから」「女性だから」と思うことがある』の回答別でみると、《そう思う》では《あてはまる》(46.2%)が4割台半ば、《そう思わない》(17.9%)が2割近くとなっており、回答割合に大きな差が見られた。

『「男の子なんだから」「女の子なんだから」と子どもに言うことがある』について、『「男性だから」「女性だから」と思うことがある』の回答別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.001$)が見られた。

設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.41であり、かなり相関が見られた。

(14) 子供と接する時に、性別を意識して言動を変えている (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全体		2174 100.0	510 23.5	1664 76.5
(3) 「男性だから」「女性だから」と思 うことがある	そう思う	1474 100.0	418 28.4	1056 71.6
	そう思わない	700 100.0	92 13.1	608 86.9



(図表IV-4-13)

○「子供と接する時に、性別を意識して言動を変えている」について、全体では《あてはまる》(23.5%)で2割を超えている。

『「男性だから」「女性だから」と思うことがある』の回答別でみると、《そう思う》では《あてはまる》(28.4%)が3割近く、《そう思わない》では《あてはまる》(13.1%)で1割超えとなっており、回答割合に大きな差が見られた。

「子供と接する時に、性別を意識して言動を変えている」について、『「男性だから」「女性だから」と思うことがある』の回答別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差($p < 0.001$)が見られた。

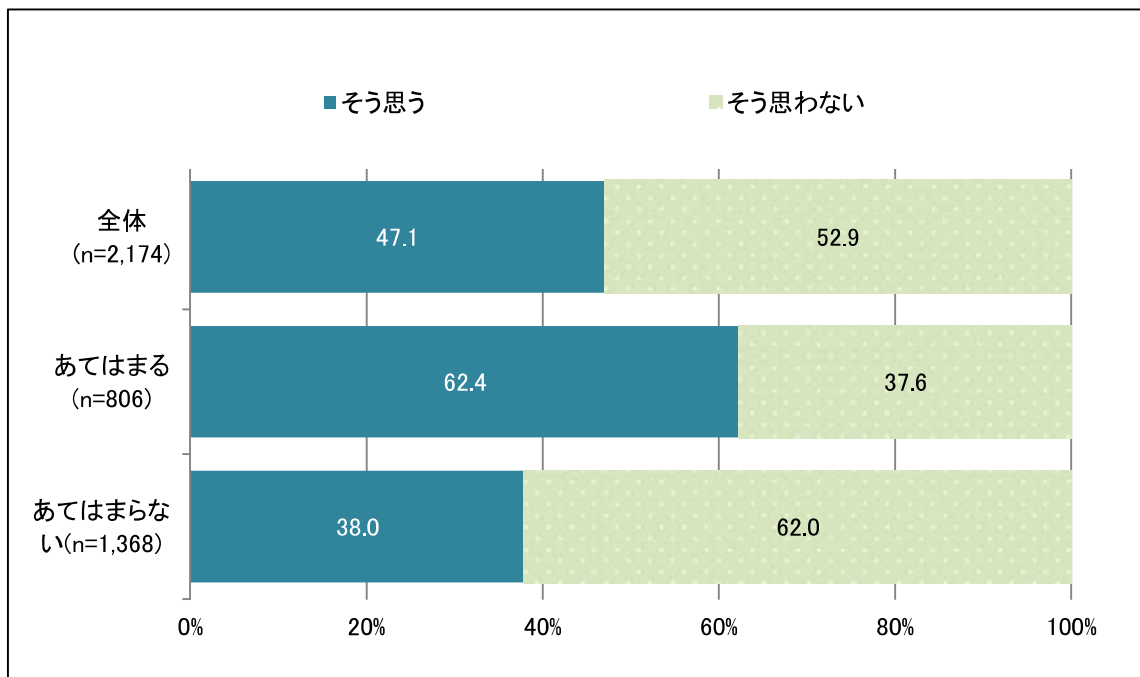
設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.33であり、やや相関が見られた。

< 仮説・検討事項(12)>

保護者自身が「男の子/女の子なんだからと子どもに言う」ことは、子どもに対する発言以外の意識や行動に表れるか

(4) 服の色など「男の子らしい」又は「女の子らしい」色があると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		2174	1023	1151
		100.0	47.1	52.9
(6) 「男の子なんだから」「女の子なんだから」と子どもに言うことがある	あてはまる	806	503	303
	あてはまらない	1368	520	848
		100.0	38.0	62.0



(図表IV-4-14)

○『服の色など「男の子らしい」又は「女の子らしい」色があると思う』について、全体では「そう思う」(47.1%)で5割近くとなっている。

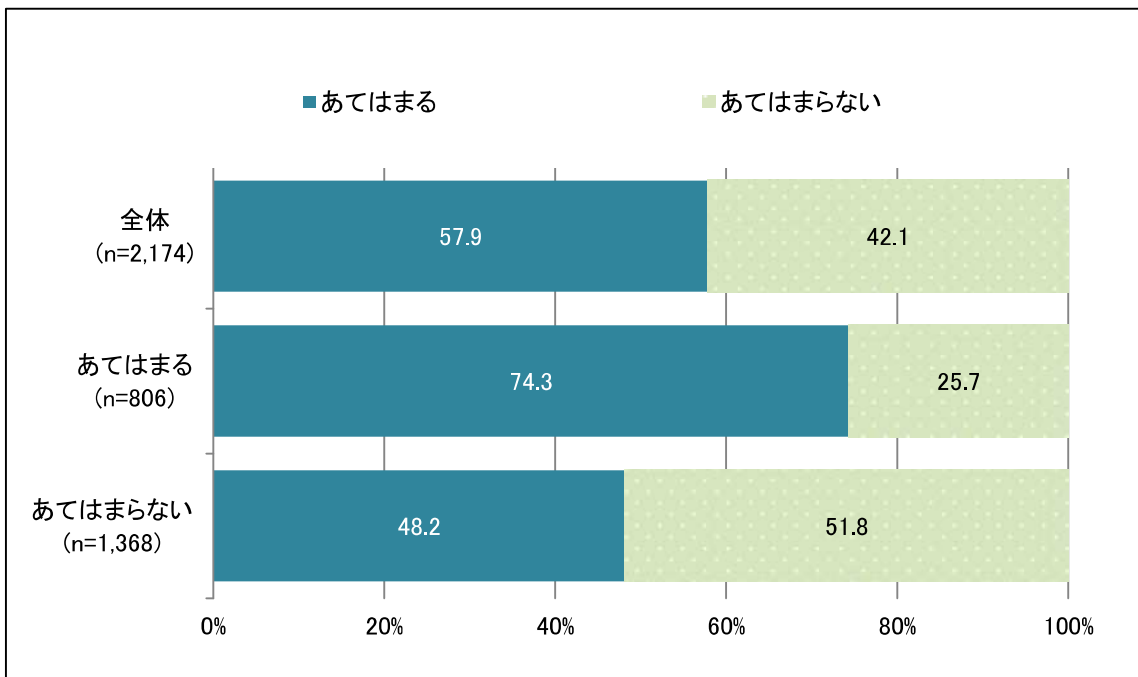
『「男の子なんだから」「女の子なんだから」と子どもに言うことがある』の回答別でみると、「あてはまる」では「そう思う」(62.4%)が6割超え、「あてはまらない」(38.0%)が4割近くとなっており、回答割合に大きな差が見られた。

『服の色など「男の子らしい」又は「女の子らしい」色があると思う』について、『「男の子なんだから」「女の子なんだから」と子どもに言うことがある』の回答別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差 ($p < 0.001$)が見られた。

設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.35であり、やや相関が見られた。

(5) 子どもの日用品やおもちゃを性別を意識して選んでいる (SA)

		計	あてはまる	あてはまらない
全体		2174 100.0	1258 57.9	916 42.1
(6) 『男の子なんだから』『女の子なんだから』と子どもに言うことがある	あてはまる	806 100.0	599 74.3	207 25.7
	あてはまらない	1368 100.0	659 48.2	709 51.8



(図表IV-4-15)

○「子どもの日用品やおもちゃを性別を意識して選んでいる」について、全体では《あてはまる》(57.9%)で6割近くとなっている。

『「男の子なんだから」「女の子なんだから」と子どもに言うことがある』の回答別でみると、《あてはまる》では《あてはまる》(74.3%)が7割台半ば、《あてはまらない》(48.2%)で5割近くとなっており、回答割合に大きな差が見られた。

「子どもの日用品やおもちゃを性別を意識して選んでいる」について、『「男の子なんだから」「女の子なんだから」と子どもに言うことがある』の回答別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差(p<0.001)が見られた。

設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.39であり、やや相関が見られた。

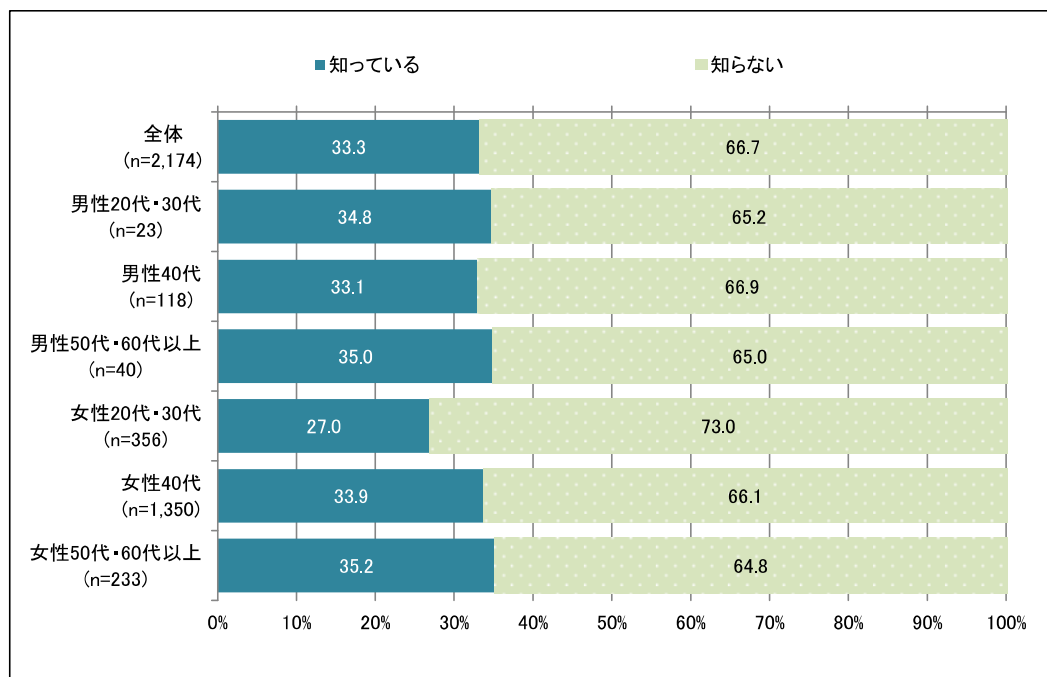
③ 無意識の思い込みの認知等と性別に関する意識の関係

< 仮説・検討事項(13)>

保護者の年代によって、無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）の認知度の差はあるか

(19) 無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）について、どの程度知っていますか（SA）

		計	知っている	知らない
全 体		2174	723	1451
		100.0	33.3	66.7
性別・年代	男性 20代・30代	23	8	15
		100.0	34.8	65.2
	男性 40代	118	39	79
		100.0	33.1	66.9
	男性 50代・60代以上	40	14	26
		100.0	35.0	65.0
女性 20代・30代	356	96	260	
	100.0	27.0	73.0	
女性 40代	1350	457	893	
	100.0	33.9	66.1	
女性 50代・60代以上	233	82	151	
	100.0	35.2	64.8	



(図表IV-4-16)

○「無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）について、どの程度知っていますか」について、全体では「知っている」（33.3%）で3割を超えている。

性別・年代別で見ると、男性では「知っている」について、「20代・30代」（34.8%）、「40代」（33.1%）、「50代・60代以上」（35.0%）と概ね3割台半ばとなっている。女性では「20代・30代」（27.0%）は3割近く、「40代」（33.9%）は3割超え、「50代・60代以上」（35.2%）は3割台半ばとなっている。

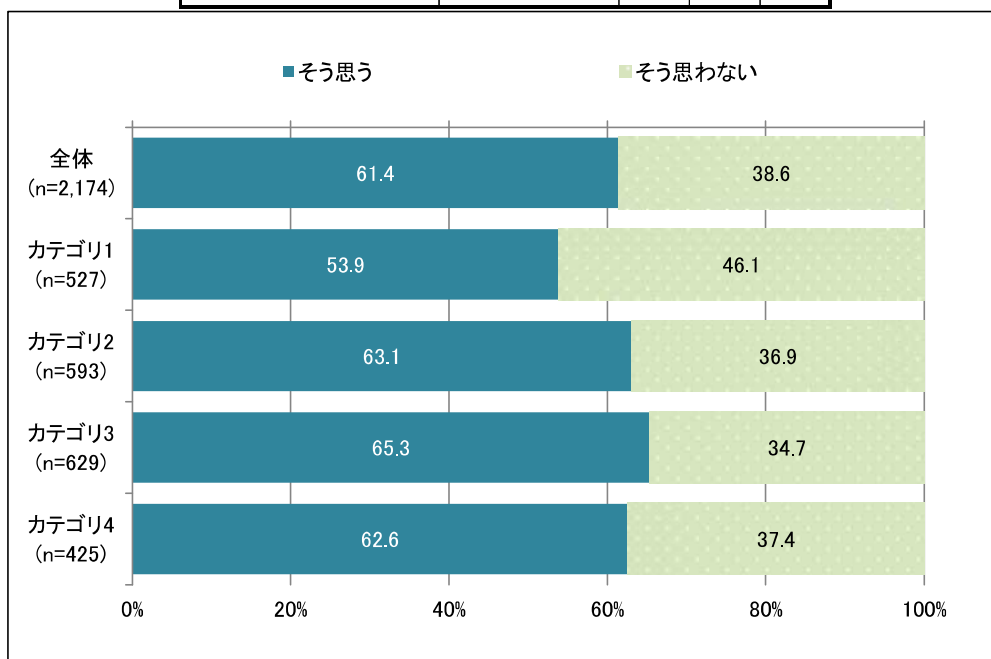
< 仮説・検討事項(14)>

設問回答の得点化したカテゴリと他の設問との間に関係性はあるか

(1) 育児は女性の方が向いていると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		2174 100.0	1335 61.4	839 38.6
(16)～(19) 子どもとかかわるなかで無意識 の思い込み(アンコンシャス・バ イアス)を意識している(得点化 合計)	カテゴリ1	527 100.0	284 53.9	243 46.1
	カテゴリ2	593 100.0	374 63.1	219 36.9
	カテゴリ3	629 100.0	411 65.3	218 34.7
	カテゴリ4	425 100.0	266 62.6	159 37.4

カテゴリについては、「第I章 5 報告書の見方」参照



(図表IV-4-17)

○「育児は女性の方が向いていると思う」について、全体では《そう思う》(61.4%)で6割を超えている。

得点化のカテゴリ別でみると、カテゴリ1では《そう思う》(53.9%)が5割超え、カテゴリ2(63.1%)が6割超え、カテゴリ3(65.3%)が6割台半ば、カテゴリ4(62.6%)が6割を超えている。カテゴリ1では、カテゴリ2～4と比べ、《そう思う》の回答割合が低くなったが、カテゴリ2～4では顕著な差が見られなかった。

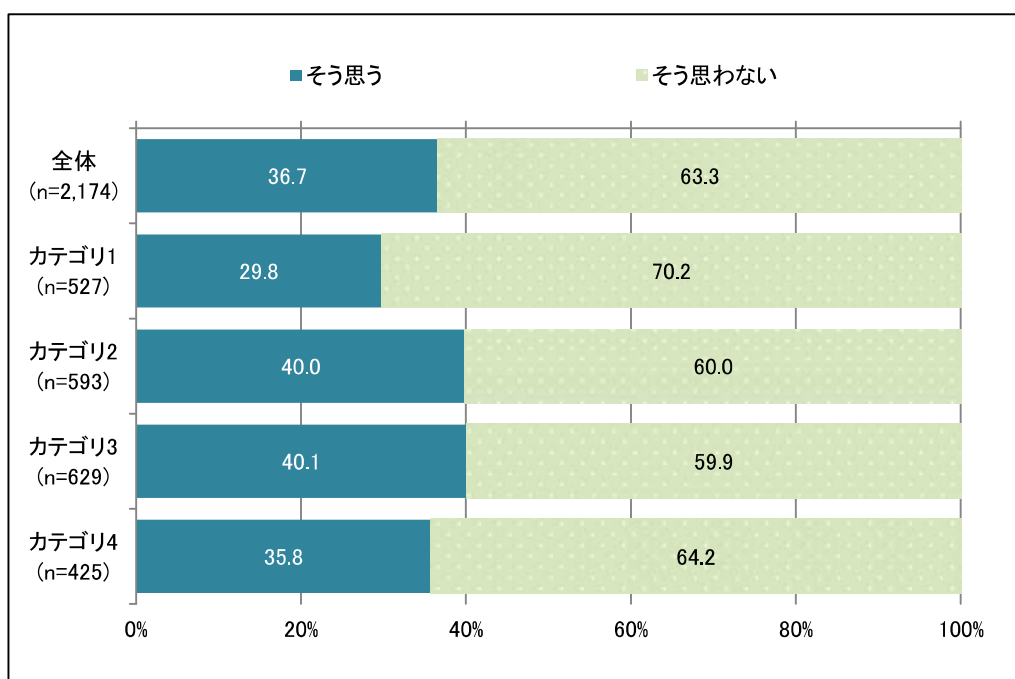
「育児は女性の方が向いていると思う」について、得点化カテゴリ別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差($p < 0.001$)が見られた。

設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.00であり、ほとんど相関が見られなかった。

(2) 家事は女性の方が向いていると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		2174 100.0	798 36.7	1376 63.3
(16)～(19) 子どもとかかわるなかで無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)を意識している(得点化合計)	カテゴリ1	527 100.0	157 29.8	370 70.2
	カテゴリ2	593 100.0	237 40.0	356 60.0
	カテゴリ3	629 100.0	252 40.1	377 59.9
	カテゴリ4	425 100.0	152 35.8	273 64.2

カテゴリについては、「第1章 5 報告書の見方」参照



(図表IV-4-18)

○「家事は女性の方が向いていると思う」について、全体では「そう思う」(36.7%)で4割近くとなっている。

得点化のカテゴリ別でみると、カテゴリ1では「そう思う」(29.8%)が3割、カテゴリ2(40.0%)とカテゴリ3(40.1%)がともに4割、カテゴリ4(35.8%)が3割台半ばとなっている。

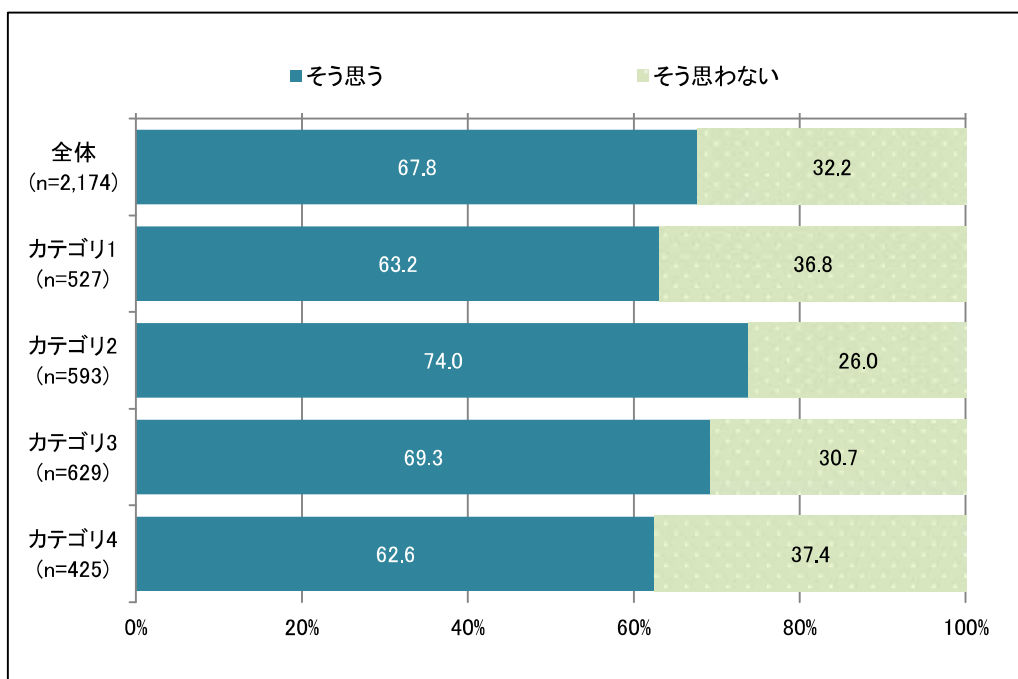
「家事は女性の方が向いていると思う」について、得点化カテゴリ別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差($p < 0.001$)が見られた。

設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.00であり、ほとんど相関が見られなかった。

(3) 「男性だから」「女性だから」と思うことがある (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		2174 100.0	1474 67.8	700 32.2
(16)～(19) 子どもとかかわるなかで無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)を意識している(得点化合計)	カテゴリ1	527 100.0	333 63.2	194 36.8
	カテゴリ2	593 100.0	439 74.0	154 26.0
	カテゴリ3	629 100.0	436 69.3	193 30.7
	カテゴリ4	425 100.0	266 62.6	159 37.4

カテゴリについては、「第1章 5 報告書の見方」参照



(図表IV-4-19)

○『「男性だから」「女性だから」と思うことがある』について、全体では「そう思う」(67.8%)で7割近くとなっている。

得点化のカテゴリ別でみると、カテゴリ1では「そう思う」(63.2%)が6割超え、カテゴリ2(74.0%)が7割台半ば、カテゴリ3(69.3%)がほぼ7割、カテゴリ4(62.6%)が6割を超えている。

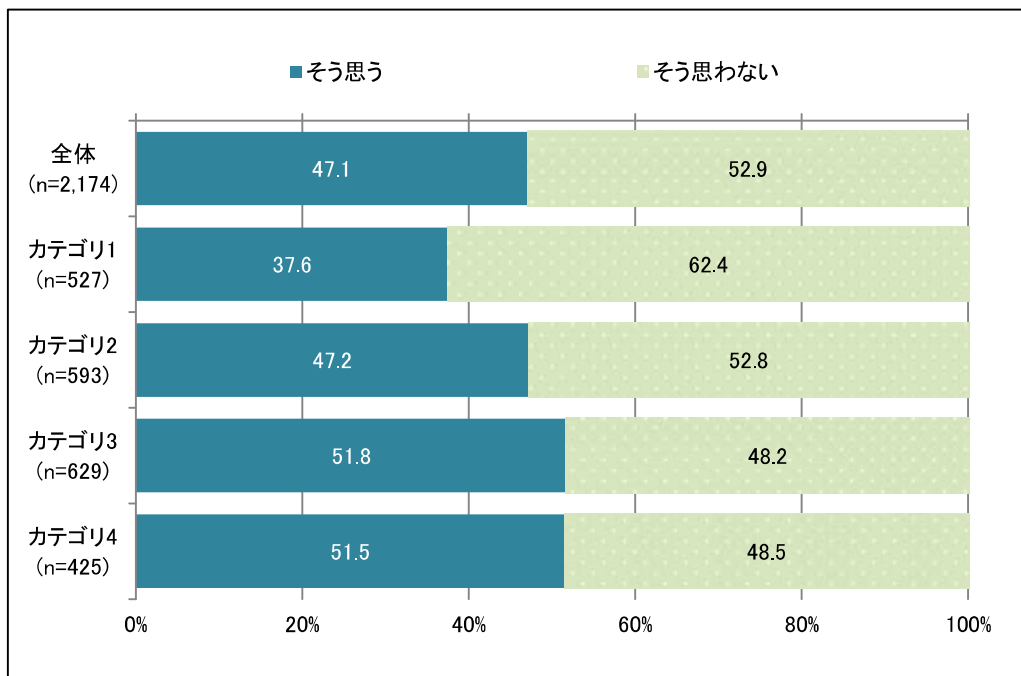
『「男性だから」「女性だから」と思うことがある』について、得点化カテゴリ別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差($p < 0.001$)が見られた。

設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.06であり、ほとんど相関が見られなかった。

(4) 服の色など「男の子らしい」又は「女の子らしい」色があると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		2174 100.0	1023 47.1	1151 52.9
(16)～(19) 子どもとかかわるなかで無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)を意識している(得点化合計)	カテゴリ1	527 100.0	198 37.6	329 62.4
	カテゴリ2	593 100.0	280 47.2	313 52.8
	カテゴリ3	629 100.0	326 51.8	303 48.2
	カテゴリ4	425 100.0	219 51.5	206 48.5

カテゴリについては、「第I章 5 報告書の見方」参照



(図表IV-4-20)

○『服の色など「男の子らしい」又は「女の子らしい」色があると思う』について、全体では「そう思う」(47.1%)で5割近くとなっている。

得点化のカテゴリ別でみると、カテゴリ1では「そう思う」(37.6%)が4割近く、カテゴリ2(47.2%)が5割近く、カテゴリ3(51.8%)とカテゴリ4(51.5%)がともに5割を超えている。カテゴリ1では、カテゴリ2～4と比べ、「そう思う」の回答割合が低くなったが、カテゴリ2～4では顕著な差が見られなかった。

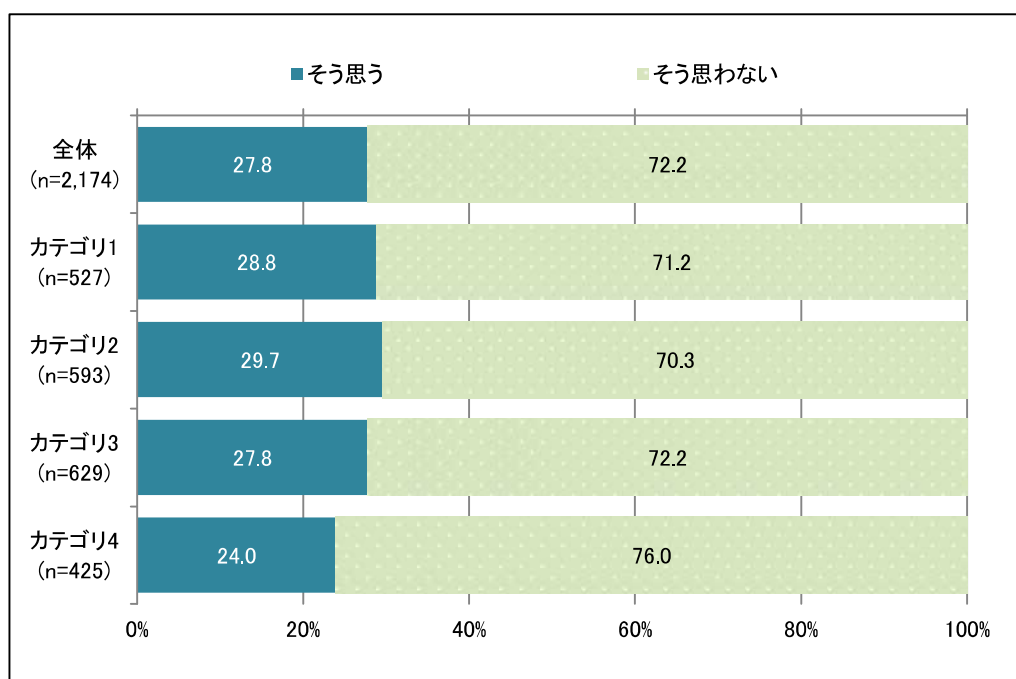
『服の色など「男の子らしい」又は「女の子らしい」色があると思う』について、得点化カテゴリ別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差(p<0.001)が見られた。

設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、-0.07であり、ほとんど相関が見られなかった。

(7) 子どもの担任の先生の性別が気になってしまう (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		2174 100.0	605 27.8	1569 72.2
(16)～(19) 子どもとかかわるなかで無意識 の思い込み(アンコンシャス・バ イアス)を意識している(得点化 合計)	カテゴリ1	527 100.0	152 28.8	375 71.2
	カテゴリ2	593 100.0	176 29.7	417 70.3
	カテゴリ3	629 100.0	175 27.8	454 72.2
	カテゴリ4	425 100.0	102 24.0	323 76.0

カテゴリについては、「第I章 5 報告書の見方」参照



(図表IV-4-21)

○「子どもの担任の先生の性別が気になってしまう」について、全体では《そう思う》(27.8%)で3割近くとなっている。

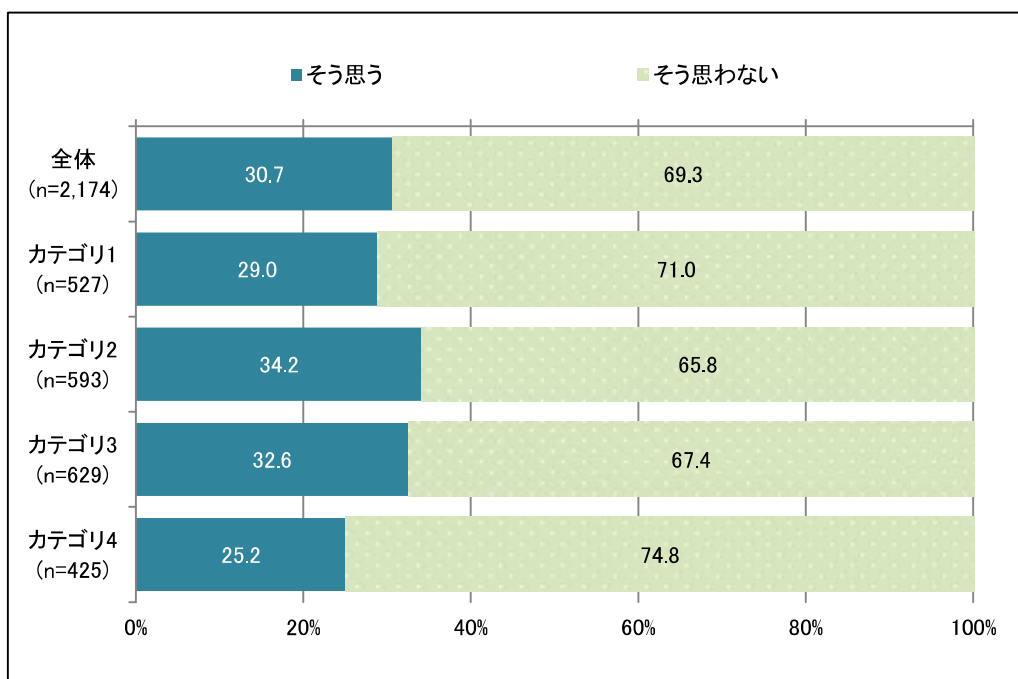
得点化のカテゴリ別で見ると、カテゴリ1では《そう思う》(28.8%)が3割近く、カテゴリ2(29.7%)が3割、カテゴリ3(27.8%)が3割近く、カテゴリ4(24.0%)が2割台半ばとなっている。

設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.12であり、ほとんど相関が見られなかった。

(11) 性別で教科の得意、不得意があると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		2174 100.0	668 30.7	1506 69.3
(16)～(19) 子どもとかかわるなかで無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)を意識している(得点化合計)	カテゴリ1	527 100.0	153 29.0	374 71.0
	カテゴリ2	593 100.0	203 34.2	390 65.8
	カテゴリ3	629 100.0	205 32.6	424 67.4
	カテゴリ4	425 100.0	107 25.2	318 74.8

カテゴリについては、「第1章 5 報告書の見方」参照



(図表IV-4-22)

○「性別で教科の得意、不得意があると思う」について、全体では「そう思う」(30.7%)でほぼ3割となっている。

得点化のカテゴリ別でみると、カテゴリ1では「そう思う」(29.0%)がほぼ3割、カテゴリ2(34.2%)が3割台半ば、カテゴリ3(32.6%)が3割超え、カテゴリ4(25.2%)が2割台半ばとなっている。

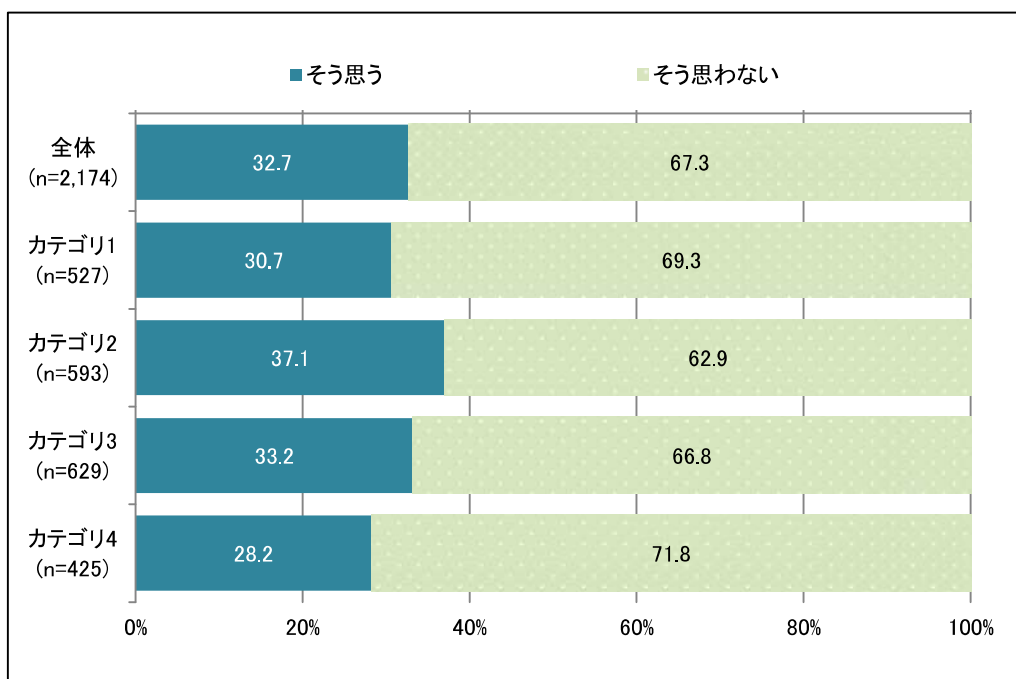
「性別で教科の得意、不得意があると思う」について、得点化カテゴリ別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差($p < 0.05$)が見られた。

設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.08であり、ほとんど相関が見られなかった。

(12) 性別で子どもの進路を考えることがある (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		2174 100.0	711 32.7	1463 67.3
(16)～(19) 子どもとかかわるなかで無意識 の思い込み(アンコンシャス・バ イアス)を意識している(得点化 合計)	カテゴリ1	527 100.0	162 30.7	365 69.3
	カテゴリ2	593 100.0	220 37.1	373 62.9
	カテゴリ3	629 100.0	209 33.2	420 66.8
	カテゴリ4	425 100.0	120 28.2	305 71.8

カテゴリについては、「第1章 5 報告書の見方」参照



(図表IV-4-23)

○「性別で子どもの進路を考えることがある」について、全体では「そう思う」(32.7%)で3割を超えている。

得点化のカテゴリ別でみると、カテゴリ1では「そう思う」(30.7%)がほぼ3割、カテゴリ2(37.1%)が4割近く、カテゴリ3(33.2%)が3割超え、カテゴリ4(28.2%)が3割近くとなっている。

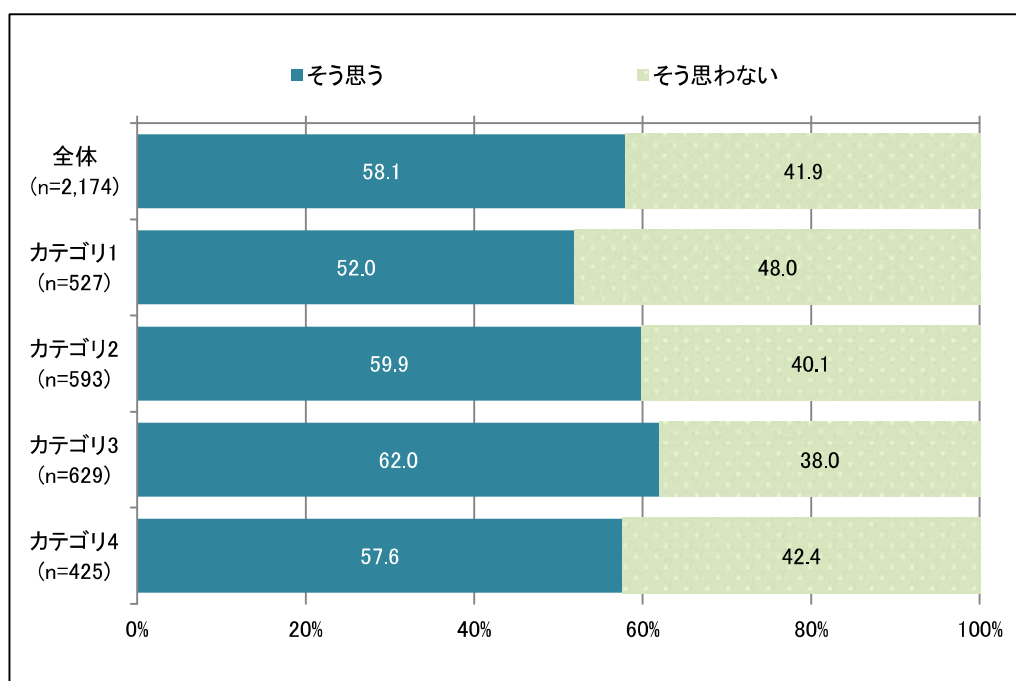
「性別で子どもの進路を考えることがある」について、得点化カテゴリ別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差($p < 0.05$)が見られた。

設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.08であり、ほとんど相関が見られなかった。

(13) 性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		2174 100.0	1264 58.1	910 41.9
(16)～(19) 子どもとかかわるなかで無意識 の思い込み(アンコンシャス・バイ アス)を意識している(得点化 合計)	カテゴリ1	527 100.0	274 52.0	253 48.0
	カテゴリ2	593 100.0	355 59.9	238 40.1
	カテゴリ3	629 100.0	390 62.0	239 38.0
	カテゴリ4	425 100.0	245 57.6	180 42.4

カテゴリについては、「第1章 5 報告書の見方」参照



(図表IV-4-24)

○「性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う」について、全体では「そう思う」(58.1%)で6割近くとなっている。

得点化のカテゴリ別でみると、カテゴリ1では「そう思う」(52.0%)が5割超え、カテゴリ2(59.9%)が6割、カテゴリ3(62.0%)が6割超え、カテゴリ4(57.6%)が6割近くとなっている。

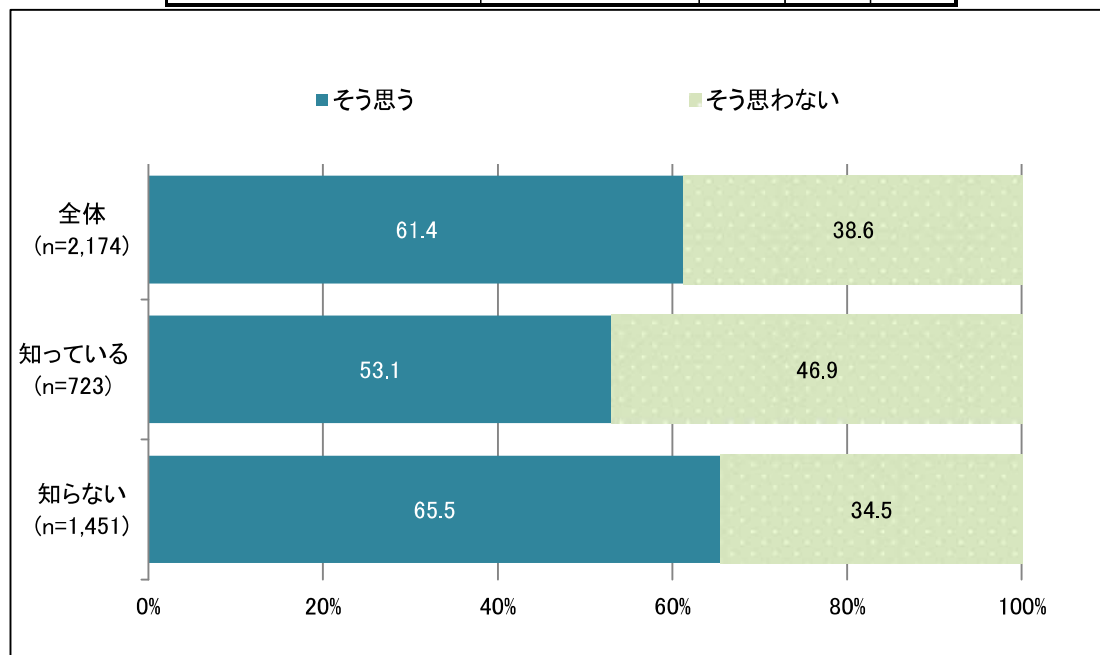
「性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う」について、得点化カテゴリ別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差($p < 0.01$)が見られた。設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.00であり、ほとんど相関が見られなかった。

< 仮説・検討事項(15)>

「無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）について、どの程度知っていますか」と他の設問間に関係性はあるか

(1) 育児は女性の方が向いていると思う（SA）

		計	そう思う	そう思わない
全体		2174 100.0	1335 61.4	839 38.6
(19) 無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)について、どの程度知っていますか	知っている	723 100.0	384 53.1	339 46.9
	知らない	1451 100.0	951 65.5	500 34.5



(図表IV-4-25)

○「育児は女性の方が向いていると思う」について、全体では《そう思う》（61.4%）で6割を超えている。

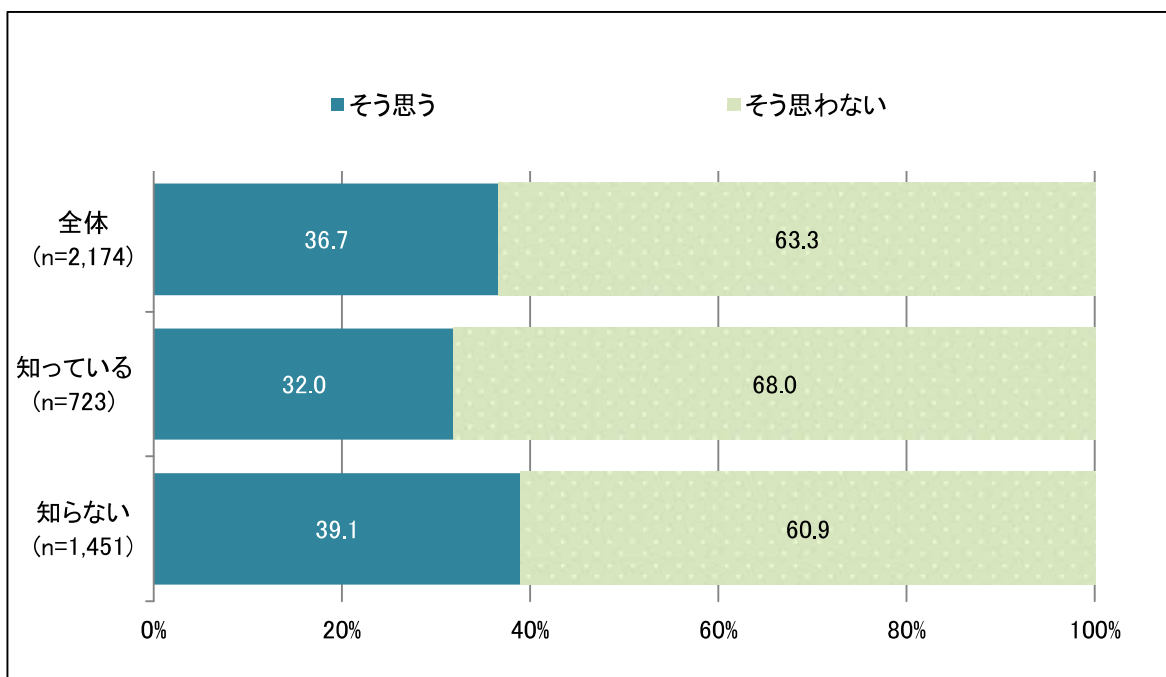
「無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）について、どの程度知っていますか」の回答別でみると、《知っている》では《そう思う》（53.1%）が5割超え、《知らない》（65.5%）が6割台半ばとなっており、回答割合に大きな差が見られた。

「育児は女性の方が向いていると思う」について、「無意識の思い込み（アンコンシャス・バイアス）について、どの程度知っていますか」の回答別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差（ $p < 0.001$ ）が見られた。

設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.05であり、ほとんど相関が見られなかった。

(2) 家事は女性の方が向いていると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		2174	798	1376
		100.0	36.7	63.3
(19) 無意識の思い込み(アンコン シャス・バイアス)について、 どの程度知っていますか	知っている	723	231	492
	知らない	1451	567	884
		100.0	39.1	60.9



(図表IV-4-26)

○「家事は女性の方が向いていると思う」について、全体では《そう思う》(36.7%)で4割近くとなっている。

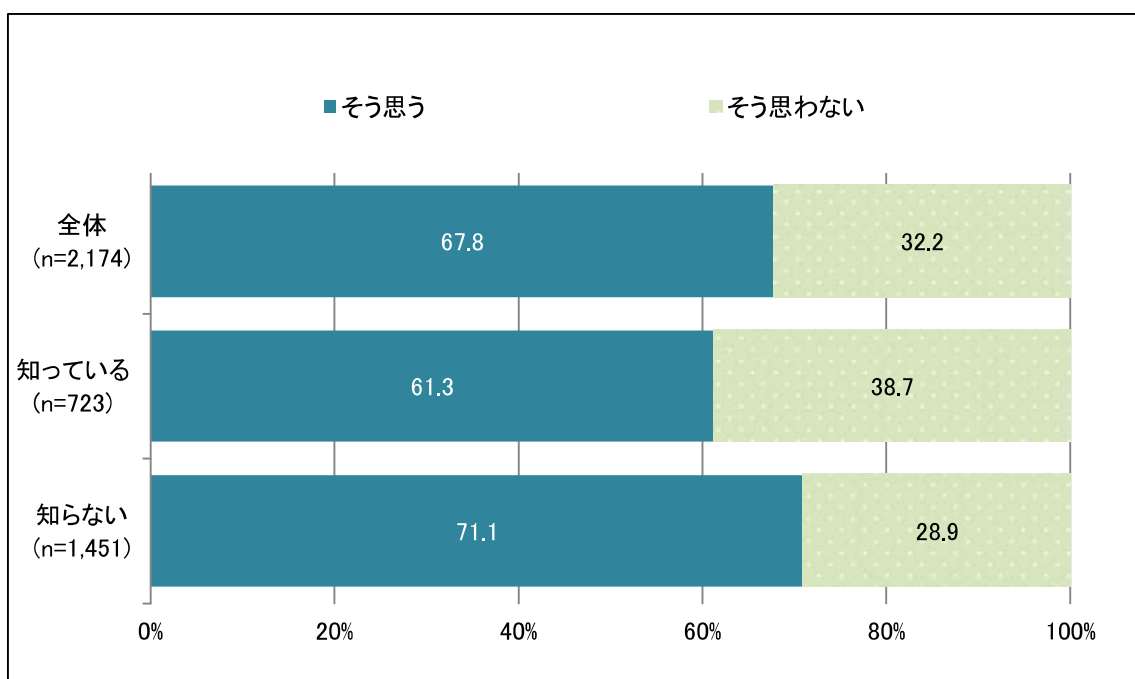
「無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)について、どの程度知っていますか」の回答別でみると、《知っている》では《そう思う》(32.0%)が3割超え、《知らない》(39.1%)がほぼ4割となっている。

「家事は女性の方が向いていると思う」について、「無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)について、どの程度知っていますか」の回答別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差($p < 0.01$)が見られた。

設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.05であり、ほとんど相関が見られなかった。

(3) 「男性だから」「女性だから」と思うことがある (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		2174 100.0	1474 67.8	700 32.2
(19) 無意識の思い込み(アンコン シャス・バイアス)について、 どの程度知っていますか	知っている	723 100.0	443 61.3	280 38.7
	知らない	1451 100.0	1031 71.1	420 28.9



(図表IV-4-27)

○『「男性だから」「女性だから」と思うことがある』について、全体では「そう思う」(67.8%)で7割近くとなっている。

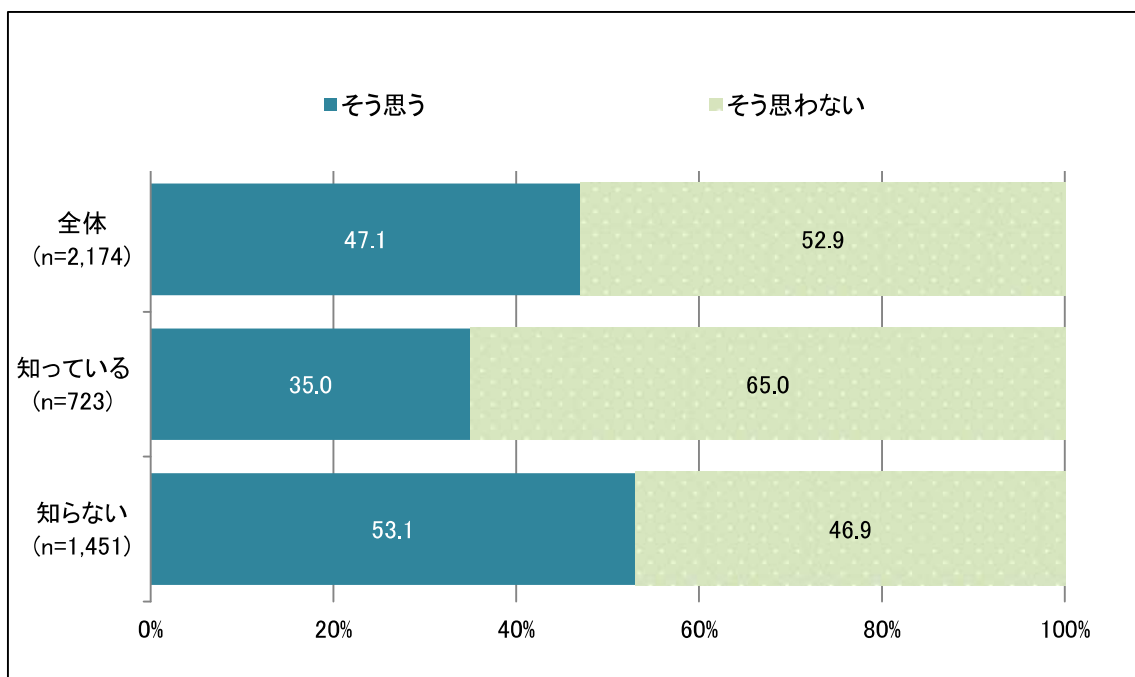
「無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)について、どの程度知っていますか」の回答別でみると、「知っている」では「そう思う」(61.3%)が6割超え、「知らない」(71.1%)で7割を超えている。

『「男性だから」「女性だから」と思うことがある』について、「無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)について、どの程度知っていますか」の回答別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差($p < 0.001$)が見られた。

設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.05であり、ほとんど相関が見られなかった。

(4) 服の色など「男の子らしい」又は「女の子らしい」色があると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		2174 100.0	1023 47.1	1151 52.9
(19) 無意識の思い込み(アンコン シャス・バイアス)について、 どの程度知っていますか	知っている	723 100.0	253 35.0	470 65.0
	知らない	1451 100.0	770 53.1	681 46.9



(図表IV-4-28)

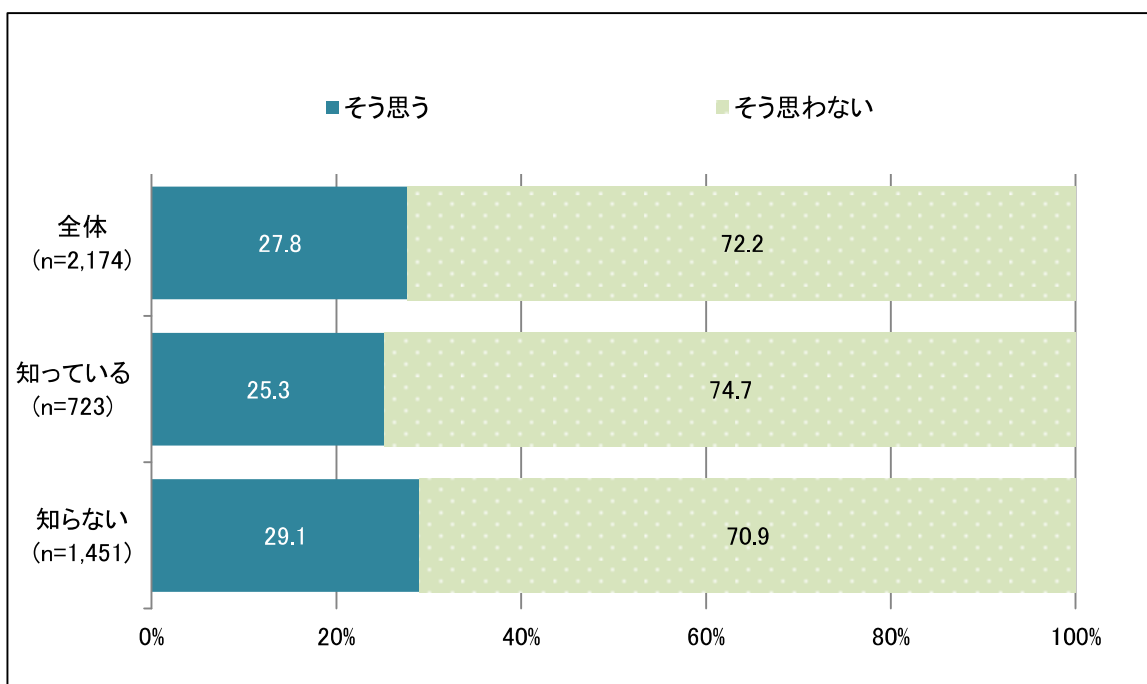
○『服の色など「男の子らしい」又は「女の子らしい」色があると思う』について、全体では「そう思う」(47.1%)で5割近くとなっている。

「無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)について、どの程度知っていますか」の回答別でみると、「知っている」では「そう思う」(35.0%)が3割台半ば、「知らない」(53.1%)が5割を超えており、回答割合に大きな差が見られた。

『服の色など「男の子らしい」又は「女の子らしい」色があると思う』について、「無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)について、どの程度知っていますか」の回答別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差($p < 0.001$)が見られた。設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、-0.04であり、ほとんど相関が見られなかった。

(7) 子どもの担任の先生の性別が気になってしまう (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		2174 100.0	605 27.8	1569 72.2
(19) 無意識の思い込み(アンコン シャス・バイアス)について、 どの程度知っていますか	知っている	723 100.0	183 25.3	540 74.7
	知らない	1451 100.0	422 29.1	1029 70.9



(図表IV-4-29)

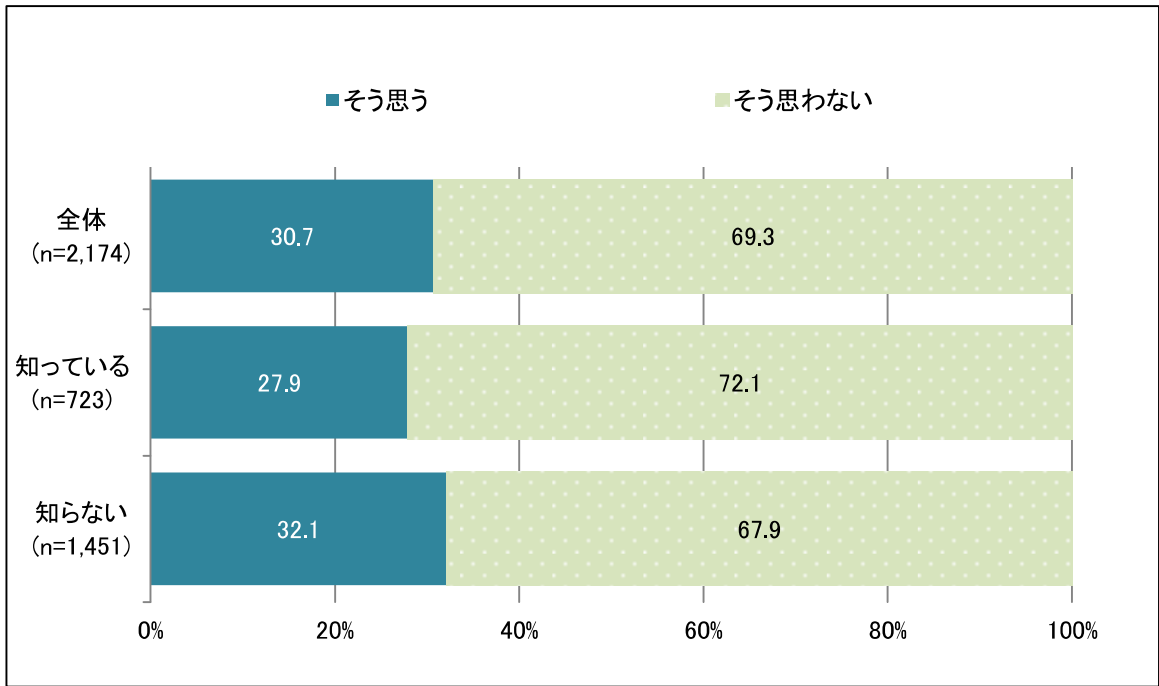
○「子どもの担任の先生の性別が気になってしまう」について、全体では《そう思う》(27.8%)で3割近くとなっている。

「無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)について、どの程度知っていますか」の回答別でみると、《知っている》では《そう思う》(25.3%)が2割台半ば、《知らない》(29.1%)がほぼ3割となっている。

設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.12であり、ほとんど相関が見られなかった。

(11) 性別で教科の得意、不得意があると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		2174	668	1506
		100.0	30.7	69.3
(19) 無意識の思い込み(アンコン シャス・バイアス)について、 どの程度知っていますか	知っている	723	202	521
	知らない	1451	466	985
		100.0	32.1	67.9



(図表IV-4-30)

○「性別で教科の得意、不得意があると思う」について、全体では《そう思う》(30.7%)でほぼ3割となっている。

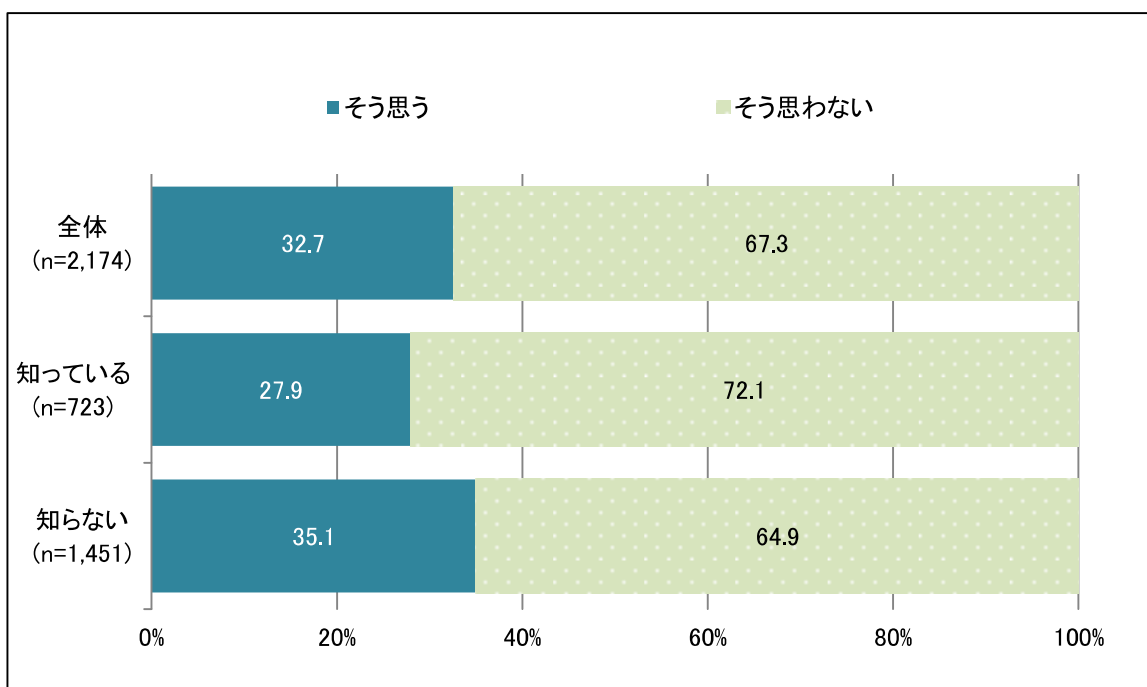
「無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)について、どの程度知っていますか」の回答別でみると、《知っている》では《そう思う》(27.9%)が3割近く、《知らない》(32.1%)が3割を超えている。

「性別で教科の得意、不得意があると思う」について、「無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)について、どの程度知っていますか」の回答別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差(p<0.05)が見られた。

設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.08であり、ほとんど相関が見られなかった。

(12) 性別で子どもの進路を考えることがある (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		2174 100.0	711 32.7	1463 67.3
(19) 無意識の思い込み(アンコン シャス・バイアス)について、 どの程度知っていますか	知っている	723 100.0	202 27.9	521 72.1
	知らない	1451 100.0	509 35.1	942 64.9



(図表IV-4-31)

○「性別で子どもの進路を考えることがある」について、全体では《そう思う》(32.7%)で3割を超えている。

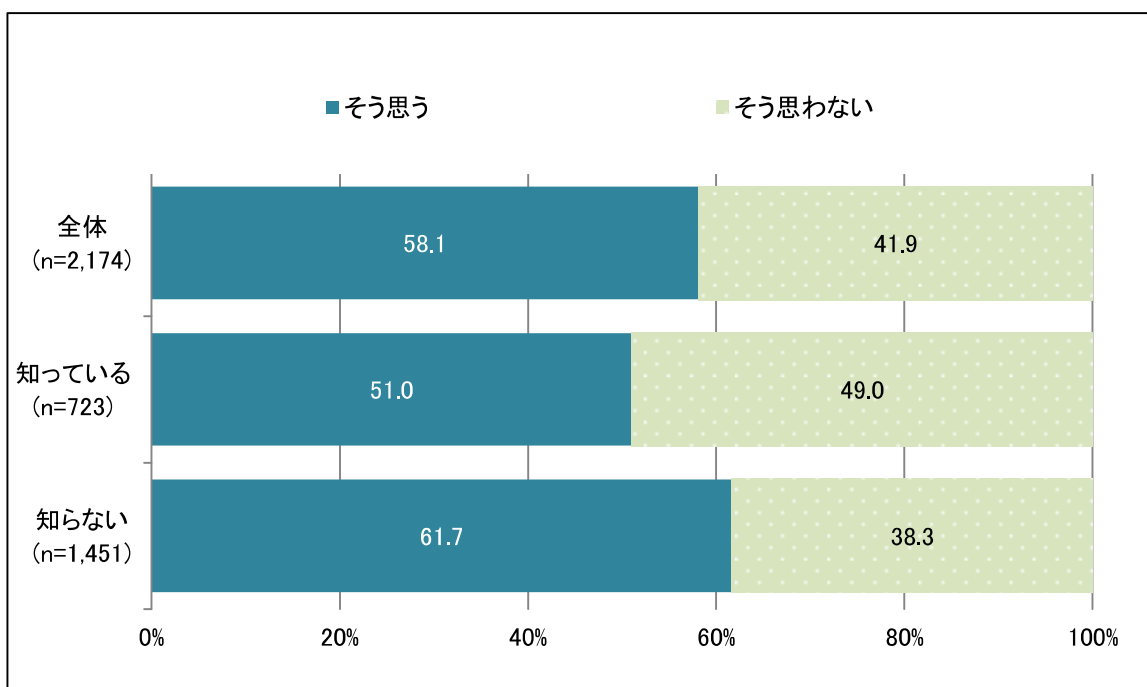
「無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)について、どの程度知っていますか」の回答別でみると、《知っている》では《そう思う》(27.9%)が3割近く、《知らない》(35.1%)が3割台半ばとなっている。

「性別で子どもの進路を考えることがある」について、「無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)について、どの程度知っていますか」の回答別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差($p < 0.001$)が見られた。

設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.07であり、ほとんど相関が見られなかった。

(13) 性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		2174	1264	910
		100.0	58.1	41.9
(19) 無意識の思い込み(アンコン シャス・バイアス)について、 どの程度知っていますか	知っている	723	369	354
	知らない	1451	895	556
		100.0	61.7	38.3



(図表IV-4-32)

○「性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う」について、全体では《そう思う》(58.1%)で6割近くとなっている。

「無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)について、どの程度知っていますか」の回答別でみると、《知っている》では《そう思う》(51.0%)が5割超え、《知らない》(61.7%)が6割を超えており、回答割合に大きな差が見られた。

「性別で向いている仕事と向いていない仕事があると思う」について、「無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)について、どの程度知っていますか」の回答別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差($p < 0.001$)が見られた。

設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.01であり、ほとんど相関が見られなかった。

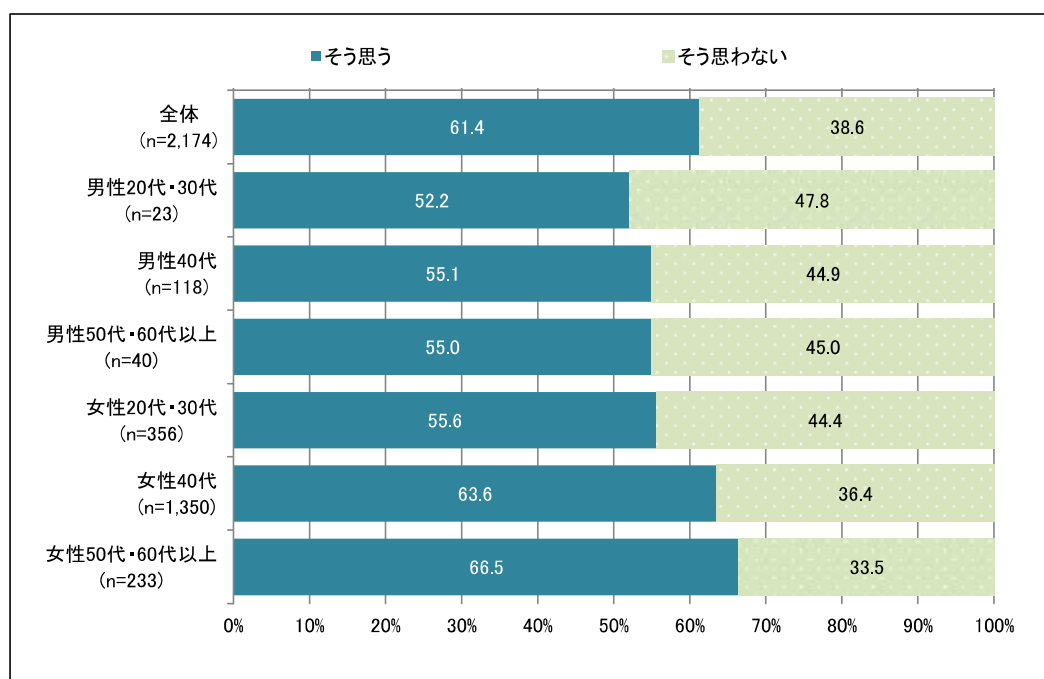
④ その他保護者の意識に関する分析

< 仮説・検討事項(16)>

保護者の年代によって、「家事・育児」に対する意識の差が見られるか

(1) 育児は女性の方が向いていると思う (S A)

		計	そう思う	そう思わない
全 体		2174	1335	839
		100.0	61.4	38.6
性別・年代	男性 20代・30代	23	12	11
		100.0	52.2	47.8
	男性 40代	118	65	53
		100.0	55.1	44.9
	男性 50代・60代以上	40	22	18
		100.0	55.0	45.0
女性 20代・30代	356	198	158	
	100.0	55.6	44.4	
女性 40代	1350	858	492	
	100.0	63.6	36.4	
女性 50代・60代以上	233	155	78	
	100.0	66.5	33.5	



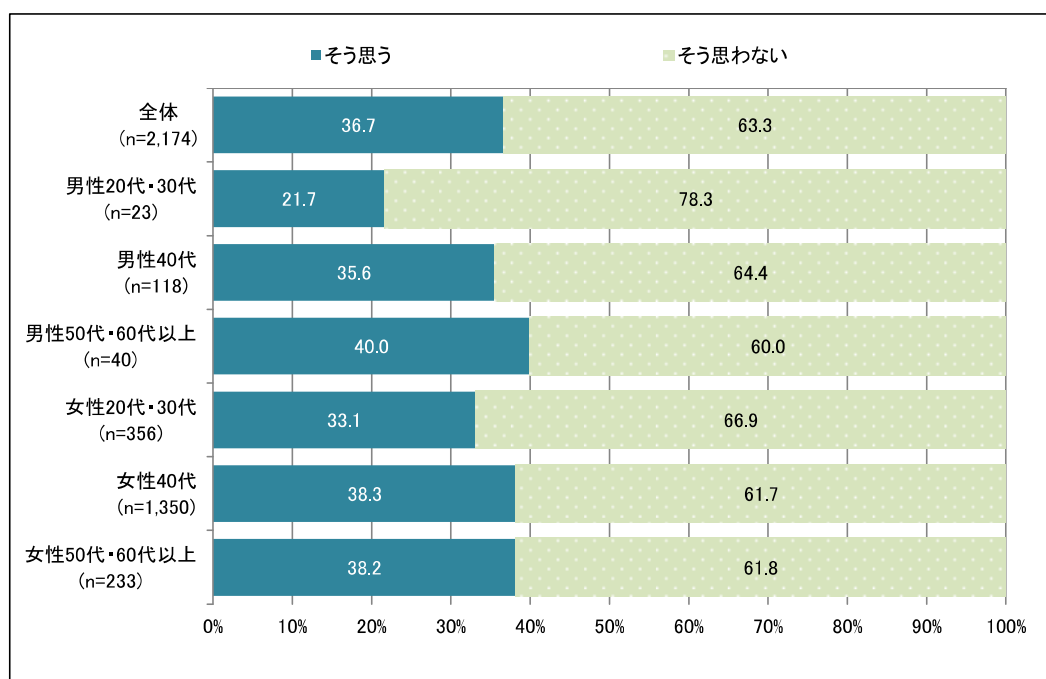
(図表IV-4-33)

○「育児は女性の方が向いていると思う」について、全体では《そう思う》(61.4%)で6割を超えている。

性別・年代別でみると、男性では《そう思う》について、「20代・30代」(52.2%)が5割超え、「40代」(55.1%)と「50代・60代以上」(55.0%)がともに5割台半ばとなっており、女性では「20代・30代」(55.6%)が5割台半ば、「40代」(63.6%)が6割超え、「50代・60代以上」(66.5%)が7割近くとなっている。男性では、顕著な差は見られなかったが、女性では年代があがるにつれ、《そう思う》の割合が高くなる傾向があった。

(2) 家事は女性の方が向いていると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
		2174	798	1376
		100.0	36.7	63.3
性別・年代	男性 20代・30代	23	5	18
		100.0	21.7	78.3
	男性 40代	118	42	76
		100.0	35.6	64.4
	男性 50代・60代以上	40	16	24
		100.0	40.0	60.0
女性 20代・30代	356	118	238	
	100.0	33.1	66.9	
女性 40代	1350	517	833	
	100.0	38.3	61.7	
女性 50代・60代以上	233	89	144	
	100.0	38.2	61.8	



(図表IV-4-34)

○「家事は女性の方が向いていると思う」について、全体では《そう思う》(36.7%)で4割近くとなっている。

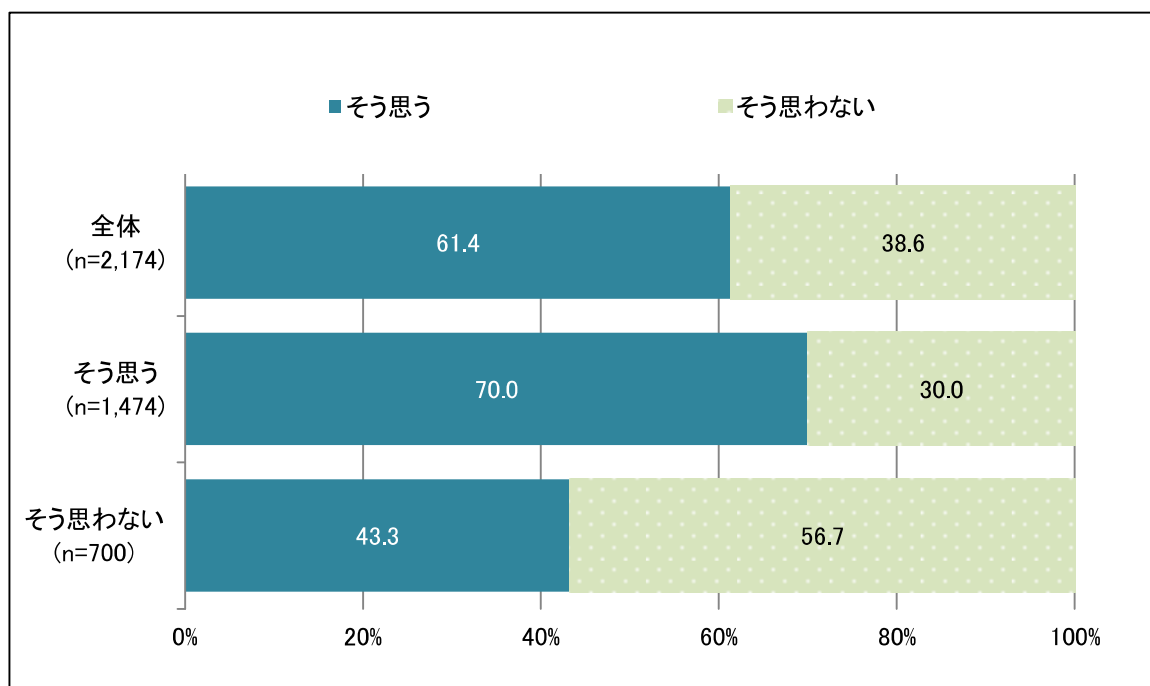
性別・年代別でみると、男性では《そう思う》について、「20代・30代」(21.7%)が2割超え、「40代」(35.6%)が3割台半ば、「50代・60代以上」(40.0%)が4割となっており、女性では「20代・30代」(33.1%)が3割超え、「40代」(38.3%)と「50代・60代以上」(38.2%)がともに4割近くとなっている。

< 仮説・検討事項(17)>

保護者自身が「男性/女性だからと思う」ことは、「家事/育児は女性の方が向いていると思う」ことに影響を与えているか

(1) 育児は女性の方が向いていると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		2174	1335	839
		100.0	61.4	38.6
(3) 「男性だから」「女性だから」と思 うことがある	そう思う	1474	1032	442
	そう思わない	700	303	397
		100.0	43.3	56.7



(図表IV-4-35)

○「育児は女性の方が向いていると思う」について、全体では《そう思う》(61.4%)で6割を超えている。

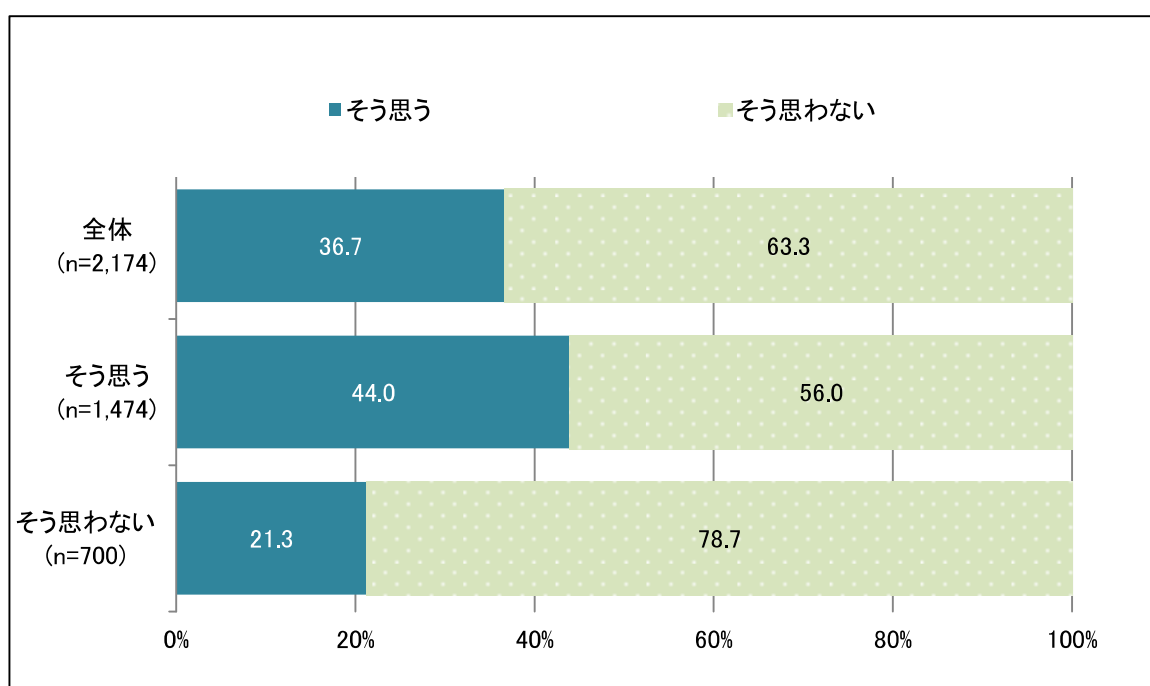
『「男性だから」「女性だから」と思うことがある』の回答別でみると、《そう思う》では《そう思う》(70.0%)が7割、《そう思わない》(43.3%)が4割を超えており、回答割合に大きな差が見られた。

「育児は女性の方が向いていると思う」について、『「男性だから」「女性だから」と思うことがある』の回答別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差($p < 0.001$)が見られた。

設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.39であり、やや相関が見られた。

(2) 家事は女性の方が向いていると思う (SA)

		計	そう思う	そう思わない
全体		2174 100.0	798 36.7	1376 63.3
(3) 『男性だから』『女性だから』と 思うことがある	そう思う	1474 100.0	649 44.0	825 56.0
	そう思わない	700 100.0	149 21.3	551 78.7



(図表IV-4-36)

○「家事は女性の方が向いていると思う」について、全体では《そう思う》(36.7%)で4割近くとなっている。

『「男性だから」「女性だから」と思うことがある』の回答別でみると、《そう思う》では《そう思う》(44.0%)が4割台半ば、《そう思わない》(21.3%)が2割を超えており、回答割合に大きな差が見られた。

「家事は女性の方が向いていると思う」について、『「男性だから」「女性だから」と思うことがある』の回答別の有意差に関するカイ二乗検定を実施した結果、有意な差($p < 0.001$)が見られた。

設問間の相関について、スピアマン順位相関係数は、0.36であり、やや相関が見られた。